

平成29年度

新発田市 防災 キャンプ

実施報告書

あかたにの家活用プログラム事例集



平成 29 年度
新発田市防災キャンプ

実施報告書
あかたにの家活用プログラム事例集

平成 29 年 12 月
新発田市教育委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 本事業の目指す姿	2
3. 学校別活動事例紹介	
新発田市立外ヶ輪小学校	5～8
新発田市立猿橋小学校	9～12
新発田市立御免町小学校	13～17
新発田市立二葉小学校	18～22
新発田市立松浦小学校	23～26
新発田市立五十公野小学校	27～30
新発田市立米倉小学校	31～34
新発田市立川東小学校	35～38
新発田市立菅谷小学校	39～42
新発田市立七葉小学校	43～47
新発田市立佐々木小学校	48～51
新発田市立住吉小学校	52～55
新発田市立東豊小学校	56～59
新発田市立中浦小学校	60～63
新発田市立天王小学校	64～67
新発田市立荒橋小学校	68～71
新発田市立本田小学校	72～75
新発田市立紫雲寺小学校	76～79
新発田市立米子小学校	80～83
新発田市立藤塚小学校	84～87
新発田市立加治川小学校	88～91
4. プログラム紹介	
川体験活動① 救助道具を作ろう・川の流れを詳しく知ろう	95
川体験活動② 川流れ体験・浮いて待ての体験	96
赤谷地域を散策していいところマップを作ろう	97
地域のハザードマップを活用した学習活動	98
防災レクリエーション	99～102
身近なものを工夫して防災グッズを作ろう	103～105
避難所生活の困りごとを知り、解決策を考えよう	106
非常用持ち出し品を考えよう	107
語り部等を活用した学習活動	108
宿泊体験プログラム① 避難所生活の準備をしよう	109
宿泊体験プログラム② 足湯体験 避難所でホッとしよう	110
宿泊体験プログラム③ 災害時にも温かい食事を作ろう	111～112

1. はじめに

本冊子は、新潟県の「ふるさと新潟防災教育推進事業（学校実践）」の補助金を活用し、平成29年度に新発田市内全21小学校が新発田市青少年宿泊施設「あかたにの家」において実施した防災キャンプの概要と活動プログラムをまとめたものです。

新発田市が目指す教育の基本方針「子どもが輝く新発田市の教育」の推進に向けて、まちづくり・人づくりの基本理念である「道学共創」の精神も念頭に、児童に「自然と向き合う正しい姿勢」を持つことを促し、「災害から生き抜く力」「未来を切り拓く力」を育むことを目的に実施しました。

自然災害がいつ起きてもおかしくない状況において、日常生活の中で備えることの重要性や状況に応じた的確な判断ができるようにする力を育む必要があります。また、防災に関する一般的な知識を教えるだけでなく、地域における過去の自然災害や地域の自然環境にも目を向けて行うことがより効果があるものと考えます。更には、自らの手や足を使って体験するプログラムを実施することや災害時の避難所の疑似体験を行うことにより、自分の命だけでなく、人との助け合いや協力する力など、主体的・対話的で深い学びに結びつく活動への展開も可能であります。

今後、各学校においては、この事例集を参考にしながら、学校の特性に応じた防災教育カリキュラムを定着させ継続することが求められます。そしてまた、「あかたにの家」を活用した防災教育を推進することで、未来を担う新発田の子どもたちの「生きる力」や「郷土愛」を育むことを期待いたします。

なお、防災キャンプ事業の協力及びこの事例集の冊子の作成にあたり、NPO法人ふるさと未来創造堂の皆様より多大な御協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

平成29年12月 新発田市教育委員会

〈実施校〉実施期日順

学校名	学年・人数	実施日	学校名	学年・人数	実施日
佐々木小学校	4年生 22人	6月13日	東豊小学校	4年生 77人	7月12日
五十公野小学校	4年生 55人	6月20日	中浦小学校	4年生 21人	7月14日
猿橋小学校	5年生 113人	6月21日	松浦小学校	4学年 10人	7月18日
本田小学校	4年生 11人	6月22日	加治川小学校	4年生 49人	7月25日
川東小学校	4年生 32人	6月27日	藤塚小学校	4年生 24人	8月1日
住吉小学校	4年生 95人	6月29日	天王小学校	4年生 14人	9月1日
外ヶ輪小学校	4年生 48人	6月30日	米倉小学校	1～4年生 28人	9月6日
米子小学校	4年生 17人	7月3日	御免町小学校	5年生 92人	9月7～8日
菅谷小学校	4年生 12人	7月5日	荒橋小学校	1～6年生 42人	9月20日
二葉小学校	4年生 45人	7月6～7日	七葉小学校	4年生 17人	9月21～22日
紫雲寺小学校	4年生 24人	7月11日			

2. 本事業の目指す姿

「道学共創の精神」「未来を切り拓く力」を育む防災教育の展開

～人とかかわり、地域に学ぶ活動から～

新発田市として
取り組む防災教育

国の防災教育の方針
防災・安全教育の充実

新潟県の防災教育の方針
安全・安心な環境づくりと防災教育等の推進

地域・家庭
学校とかかわり、思い・願いに共感する
地域・家庭教育の重要性を再認識

共に学び合う機会から、「家庭・地域と
ともに歩む学校づくり」への理解と生涯
学習社会の必要性
⇒家庭・地域の教育力の再生

家庭や地域
との連携・協働

・子どもも大人も、共に学び、かかわる。
・各校の学びを共有する。
⇒小・中・地域連携による教育機会の創造

家庭や地域
との連携・協働

小学校 あかたにの家を活用した防災キャンプ
人とかかわり、地域に学ぶ・郷土愛を深める防災教育

学びをつなぐ・生かす体験機会から「自分の命を自分で守る」
「人と助け合い、協力する」
その大切さを実感させ、実生活に生かす。
⇒郷土愛・主体性・道徳心を伸ばす・深める教育

災害発生時や
避難所体験、
将来を見据えた体験

郷土愛 自然と共生する心構え
主体性 危険回避能力 思考・判断力
道徳心 いのちの尊さ 協力する心 思いやる心

中学校

地域課題を自己課題として捉え、
地域と共に解決・改善を目指す未来を切り拓く防災教育

小学校で学んだ知識・体験を生かして、
「救われる人」から「救う人」への実現へ！
⇒安心・安全な新発田の未来を
考え、創る教育の実践

中学校区での
学校間の連携

深い郷土愛の醸成
社会を生き抜く・
未来を切り拓く力の育成

創造力・表現力・
実践力
コミュニケーション能力
規範意識
思考・判断力
主体性・郷土愛
道徳心・貢献心
自己有用感

地域の魅力・教育
資源をあかたにの家
のプログラム化

赤谷地域

地域外の人とかかわる喜びを
実感し、地域主体で自地域を
幸せにする活性化策を検討

あかたにの家の活用・
交流人口増加

3. 学校別活動事例紹介

新発田市立外ヶ輪小学校の事例

日 時	平成 29 年 6 月 30 日 (金) 9:00 ~ 15:20 (日帰り)	場 所	あかたにの家
学 年	第 4 学年 48 人	引 率	教員 4 人、保護者ボランティア 外部講師 3 人
ね ら い	(1) 防災の視点による体験活動を通して自然災害に備える意識を高め、自分にできることを考え、実践できるようにする。 (2) 集団活動を通して、きまりを守り、節度ある行動ができるようにするとともに、協力し合う態度を育てる。		

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	外ヶ輪小学校出発		
9:30 9:45 11:55	あかたにの家到着 【活動 1 防災レクリエーション】 (会場：体育館) (参考P. 99 ~ 102) ※保護者ボランティアと一緒に体験 ①自然の恵みと災いについて写真資料等を使い、新発田市の魅力を確認し、自然災害にそなえることを伝える。 ②2つの班に分かれ、4コーナーを体験。 (次の体験前に給水、2コーナー体験後休憩) ・水消火器体験 ・毛布担架搬送体験 ・防災クイズ ・身近なもので応急手当体験 ③振り返り ★自分の命を自分で守ることを確認し、自分の命を守った後の行動として避難所に避難することを押さえる。 ★午後からは避難所での課題や自分たちにできることを考え、体験することを伝える。	水消火器 水消火器×6本+予備・カラーコーン×3個(消火をする火元として使う) 毛布担架 毛布×6枚・担架用の棒×12本 防災クイズ クイズ資料 応急手当 タオル・ビニール袋(買い物の際にもらえる持ち手付の大き目のビニール袋)・はさみ×人数、説明パネル	外部講師
12:00 13:15	【活動 2 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
13:15 14:00	【活動 3 災害時に自分にできることを考える】 (会場：体育館) (参考P. 106) ①午前中を振り返り、自分の命を守れなければ、他の人を助けられないことを確認する。絶対に自分の命は自分で守ることを伝える。 ②地震の揺れがおさまった後の、避難所までの行動を考える。 ③地震は1回ではおさまらないことを伝え、具体的状況の中で、 1) 避難所ではどんなことに困るのかを考える。 2) その困りごとを解決するためにできることを考え、A3用紙に書かせる。 3) 数班から発表させる。 ★ホワイトボードに発表内容を可視化する。 ④まとめ ★人のために役立つためには、自分の命を守らなければいけないことを押さえる。	A3用紙・プロッキー×班数	外部講師
14:10 15:10	【活動 4 防災グッズ作り・身近なものを活用した工夫】 (会場：体育館) (参考P. 101、103 ~ 105) ①中越地震等の避難所の様子や課題を伝える。 ②新聞紙スリッパ作り(全体活動) ★新聞紙スリッパは、衛生面や防寒にも役立つことを伝える。身近なものを工夫することの大切さを伝える。 ③段ボールシェルター作り(班活動) ④熊本地震の避難所で活躍していた小・中学生の様子を伝え、まとめる。 ★避難所では「皆で協力すること・自分にできることを一生懸命頑張ること」を押さえる。	スリッパ 新聞紙2枚×人数 シェルター 段ボール3箱・段ボールカッター・ガムテープ・はさみ×班数	外部講師
15:10 15:20	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

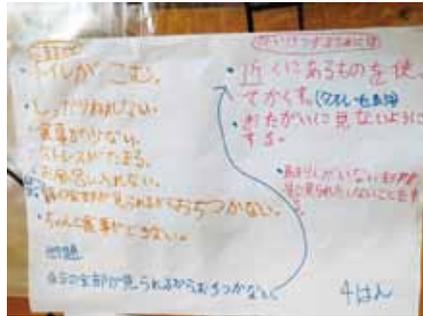
当日の様子



防災レクリエーション（水消火器体験・毛布担架搬送体験・防災クイズ）



避難所の困りごとの解決策を話し合い



グループワーク



段ボールシェルター作り

参加した児童の感想・気づき

- ・新聞紙スリッパもレジ袋で応急手当もどれも身近にあるものなので、知っていると感じた。
- ・災害が起きたらけがをする人がいるかもしれないから、レジ袋三角巾やタオルの応急手当は大切だと分かった。
- ・避難所で何日も生活するのは大変だと分かった。食べ物もないし、寝るときもきつかったので辛そうだなと思った。
- ・自分の命は自分で守る、災害のことをちょっと意識しながら、ちゃんと備えておくことが大事だと分かった。

参加した先生の声

- ・避難所での生活や自分の命を自分で守ることなど、分かりやすく体験も入れながら教えていただきました。普段、意識したことがないことを、子どもたち一人一人がしっかり考え、楽しみながら体験できたことは、大変よかったです。講師、スタッフのみなさんのおかげで有意義な体験活動となりました。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学級数 15、全校児童数 356 名の本校では、素直な児童が多く、教育目標「ともに伸びゆく」の具現を目指し、日々の教育活動に取り組んでいる。また、学校経営方針に「命を育て守る教育の推進」を掲げ、防災に対する意識を高めている。学区は、新発田市の中心部に位置し、市役所をはじめ、市民文化会館、生涯学習センター等の公共施設が集中している。校区全体の空気は活気に満ちており、保護者や地域住民は教育に熱心で、地域の諸活動に積極的に参加する。</p> <p>地域で起こりうる可能性の高い災害は、地震、水害であり、集中豪雨によりすぐに道路が冠水してしまう地域もある。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>「<u>自他の命を守る</u>」ための方法を身に付けること</p> <p>「校内避難訓練」、「あかたにの家防災体験学習」、「総合的な学習の時間」等での学びを、有事には実際に活用し、自他の命を守るために自ら行動できるようになってほしいと考える。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域で起こりやすい災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かしの確に行動することができる。(知識、思考・判断) ○ 災害時における危険を予測し、日常の訓練等を生かしながら自他の安全を守ることができる。(危険予測・主体的な行動) ○ 自他の生命を尊重し、他の人や地域の安全のために行動することができる。 (社会貢献、支援者の基盤)
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>4 学年を対象に、青少年宿泊施設「あかたにの家」で、1 日防災体験学習を行った。NPO 法人「ふるさと未来創造堂」の方を講師に、非常食作りと試食、防災レクリエーション、避難所生活準備などの活動を行った。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・5 年生防災体験学習（一泊二日）の実施 ・年 3 回の避難訓練 ・年 1 回の引き渡し訓練（家庭との連携）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置付けた防災教育プログラムを活用した授業の実施 ・5 年生防災体験学習の確実な実施

新発田市立猿橋小学校の事例

日時 平成 29 年 6 月 21 日 (水) 8:40 ~ 14:55 (日帰り) **場所** あかたにの家

学年 第 5 学年 113 人 **引率** 教員 9 人 **外部講師** 5 人

- ねらい**
- (1) 体験的な防災教育や施設周辺の自然を生かした体験活動を通して、自然の恵みと発生する災害について理解し、自然と一緒に生きていくための心構えを学ぶ。
 - (2) 体験的な活動を通して、互いに協力することや自主的・自律的な態度を育て、豊かな心情を育てる。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
8:40	猿橋小学校出発		
9:40	あかたにの家到着 【活動 1 地域のハザードマップを活用した学習活動】 (会場：体育館) (参考P. 98) ①加治川に住む生き物を紹介し、生き物の生態と川の特徴を関連させ、加治川の良さを知る。 ★どういった川に、どんな生き物が生息しているのか、また上流・中流・下流での川の流れの違い等、特徴を知る。 ②自分の家、高い建物、海、川、防災関連施設(役場、消防、警察等)を白地図にペンでマーキングする。 ★自地域の地図にマーキングしていく中で、川との位置関係や自分の家からの避難経路を確認する。 ③ハザードマップを配付し、地域でどういった災害が想定されているのか理解し、避難場所や避難ルートを話し合う。	ハザードマップ学習 A3 白地図 (猿橋小学校区)・ A3 ハザードマップ・プロッキー×班数	外部講師
11:45	④班で話し合った結果を発表。		
12:10	【活動 2 避難所体験～非常食を作ろう・食べよう!】 (会場：体育館) 昼食・休憩 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
13:10	昼食後、記念撮影		
13:20	【活動 3 防災グッズ作り】 (会場：体育館) (参考P. 101、103～105) ①過去の災害時の避難所の様子や課題を伝える。 ②避難所で役立つ生活用品、防災グッズ作りを体験する。 ・新聞紙スリッパ (全体活動) ・段ボールシェルター (班活動) ③まとめ・振り返り	スリッパ 新聞紙 2 枚×人数 シェルター 段ボール 3 箱・段ボールカッター・ガムテープ・はさみ×班数	外部講師
14:20	★家庭での備えについて家族と話し合うことの大切さを伝える。		
14:30	【活動 4 振り返り記入】 (会場：体育館) ・数人から感想発表。		外部講師
14:45	・過去の災害時の避難所での小学生の活躍を伝え、まとめる。		
14:50	終わりの会、記念撮影		学校
14:55	あかたにの家出発		

当日の様子



川の恵み、生き物について学習



ハザードマップを活用した学習・発表



新聞紙スリッパ作り



段ボールシェルター作り



参加した児童の感想・気付き

- ・川の危険だけでなく、いいところもあります。それは、生き物が多くいることやお米などの作物が作れることです。あかたにの家に行ったことで、洪水などが起きたとき、今回の勉強を思い出して、実際に行動してみたいと思いました。
- ・新聞紙スリッパを作りました。窓ガラスが割れていても、この新聞紙スリッパがあれば、安全に歩けることが分かりました。家でも新聞紙スリッパを作りました。家族は「すごい」、「何でできるの」と驚いていました。あかたにの家では貴重な体験をさせてもらってうれしかったです。

参加した先生の声

- ・防災について体験的に学べる機会は多くはありません。今回、防災グッズ作りや非常食を食べる体験ができたことは、有意義な学習の機会となりました。
- ・ハザードマップを作成する際、指定された避難所に行くべきか、他の安全な場所に避難するべきか、家にとどまるべきなのか、悩んでいる児童がいました。災害の状況や避難所と自宅との関係などから、安全な場所を判断することは難しかったようです。しかし、あらかじめシミュレーションしておくことは、緊急時の備えとして必要だと感じました。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学級数 29、全校児童 671 名の当校は、“ともにきらきらかがやこう”をスローガンに充実した教育活動を実践している。学区は高速道路や商業施設が建ち並ぶ発展した市街地にあり、児童は広範囲から通学している。保護者や地域は協力的で、学校の教育活動や子どもたちの安心安全な環境づくりのために、登下校見守りや学校環境整備等、多くの支援をいただいている。学校の周辺には、大雨の際に水を貯める貯水池が複数あり、また河川の整備が整っているため、洪水の恐れは比較的少ないとみている。当地域で起こりうる可能性の高い災害は、地震である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における避難訓練を確実に実施する。 ・登下校時、学校生活時の安全を確保する。 ・子どもの危険回避に対する意識を高め、自他の命を守るために安全に行動できるようにする。 ・地域の人、場所、特徴をよく知り、災害時の行動に生かす。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りの危険を予測し、回避する力とともに、事件・事故災害に遭遇した際に、被害を最小限にして、危機的な状況を乗り切る子ども ・「災害安全」「交通安全」「生活安全」について、発達段階に応じて知識を積み重ね、身の回りの危険について理解し、日常の中に潜む危険を予測し、自ら進んで危険回避のための行動ができる子ども
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p><5年生防災キャンプ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害図上訓練DIGを活用した防災教育 ・非常食作り（救給カレー） ・防災グッズ作り（新聞紙スリッパ 段ボールシェルター）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・「あかたにの家」防災キャンプの実施 ・年間指導計画に基づいた安全教育指導（避難訓練、児童引渡訓練、集団下校訓練）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置付けた防災教育プログラムを活用した授業の実施 ・地域の危険箇所や避難場所等について、児童や保護者、職員間において共通理解を図る。 ・防災キャンプの確実な実施

新発田市立猿橋小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	<div data-bbox="359 1816 1340 1892" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">防災教育プログラム（地震災害）＋避難訓練</div> <div data-bbox="359 1413 1340 1563" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 防災教育プログラム（津波災害 洪水災害） ＋集団下校訓練 </div> <div data-bbox="359 1070 1340 1146" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">防災教育プログラム（土砂災害 原字力災害）</div> <div data-bbox="359 824 1340 900" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">防災教育プログラム ＋避難訓練＋児童引渡訓練</div> <div data-bbox="359 421 1340 497" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">防災教育プログラム（雪災害）＋避難訓練</div>											
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												
			<div data-bbox="858 1496 1011 1704" style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> あかたにの家 防災キャンプ </div>									

新発田市立御免町小学校の事例

日時 平成29年9月7日(木)9:00～8日(金)11:15(一泊二日) **場所** あかたにの家、滝谷森林公園

学年 第5学年 92人 **引率** 教員 8人 **外部講師** 6人

- ねらい**
- (1) 体験的な防災教育をとおして、非常時にどのような行動をとるべきかを理解させ、自分や周りの人々を守る知識や方法を身に付けさせる。
 - (2) 赤谷地区の自然環境を生かした学習を行う。
 - (3) 「自分たちも新発田のために役に立てる」という意識を高め、郷土愛を育てるとともに自己有用感の向上を図る。

【活動の内容】

時間	内容(★留意点)	準備品	担当
9:00	御免町小学校出発		
9:40	あかたにの家到着 【活動1 内の倉ダム見学と新発田における災害と防災の歴史】 2チームに分かれ、①と②を交代で活動する。 ①内の倉ダム見学 (講師：新発田地域振興局地域整備部ダム管理課管理係)		学校 外部講師
12:20	②新発田における災害と防災の歴史 (会場：体育館) (講師：山沢先生)		
12:30	自分で作ったおにぎりを食べよう		学校
13:15	休憩		
13:15	【活動2 防災レクリエーション】 (会場：体育館、研修室2) (参考P. 99～102) 2チームに分かれ、①と②を交代で体験する。 ①新発田消防署の方より3コーナーの体験 ・水消火器体験 ・心肺蘇生、AED体験 ・毛布を使った搬送体験 ②家庭での備えを考える 1) 家庭の備えを考える (参考P. 107) ・災害が発生すると、電気・ガス・水道が使えなくなることを知る。 ・個人で必要だと思うものを5つ選び、選んだものを班内で発表し合う。 ・班で必要だと思うものを5つ選んで、A3用紙に書かせる。 ・いくつかの班から「選んだもの」と「選んだ理由」を発表させる。 ・防災グッズチェックリストのものは全て必要。その中で必要なものを選ぶと、個人・班でも違うように、家庭の備えは、家族構成や特徴によっても違うことを伝える。 2) 新聞紙スリッパ作り (参考P. 101) ・避難所では、みんなで持ち寄ったものや避難所にあるものを工夫して生活しなければいけないことを伝え、身近な新聞紙を使って新聞紙スリッパ作りを行う。 ・協力や工夫して自分に出来ることを率先して行うことの大切さを伝えるとともに自分の家族にあった防災グッズを準備するために、今日自宅に戻ったら家族と話し合うことを伝え、まとめる。	水消火器 水消火器×6本+予備・カラーコーン×3個(消火をする火元として使う) 毛布担架 毛布×6枚・担架用の棒×12本 備え 防災グッズチェックリスト×人数 A3用紙・プロッキー×班数 スリッパ 新聞紙2枚×人数	外部講師
16:30	【活動3 サバイバルクッキング】 (会場：食堂、食堂前廊下) (参考P. 111～112) ※各班に新発田市食生活改善推進委員(15人)に入ってもらおう。 ①全体で作り方を簡単に説明した後、各班で食推さんを中心に体験。 ②煮ている間に机の上を整理し、紙食器を作り、完成したら紙食器を使って食べる。 ★廊下のコンロ・鍋のところに必ずスタッフがいて安全管理を行う。	食材(班の分量に切り分けておく)・鍋・コンロ・アイラップ・ゴミ袋 紙食器 新聞紙2枚×人数	外部講師
18:20			

時間	内容(★留意点)	準備品	担当
18:30	<p>【活動4 避難所を乗り切る準備をしよう】 (会場：体育館)</p> <p>①あかたにの家で明日の朝まで避難所生活をする事を伝え、災害が起こると、電気・ガス・水道が使えなくなることを確認し、明日の朝までここで避難所生活をする際、どのようなことに困るか、班で話し合わせる。</p> <p>【条件】・電気が使えるのは就寝する部屋（体育館）のみ（熱中症対策） ・水はトイレのみ使える（水道の蛇口等は全て使用不可） ・ガスは使えない ・使える場所は1階の体育館と一部の部屋のみ</p> <p>②話し合った困ることを発表させて、ホワイトボードに整理する。</p> <p>③これから寝る準備を行うことを伝え、どのようにしたら92人が体育館で寝られるか、班で考え、発表し、どの案が良いかみんなで考える。 ・1人に保温シート1枚と毛布2枚を配付し、男女別に寝ることを伝える。</p> <p>④ルールが必要なことを伝え、生活のルールをみんなで決める。 ・消灯時間・就寝時刻・起床時刻・消灯までにする事・起床してからすること ・具合が悪くなった子の対応・トイレに行く時のルール等</p> <p>⑤3班（「寝る場所の準備」・「ルールを書いて掲示」・「体育館の地図を作る」）に分かれて、全員で協力して避難所生活の準備をする。</p> <p>⑥各班から、どんな活動をしたか報告してもらい、みんなでルールを守って生活することを押さえる。</p>	<p>話し合い A3用紙2枚・プロッキー×班数</p> <p>避難所準備 保温シート1枚・毛布2枚×人数、模造紙半紙×8枚、A3用紙・プロッキー・セロハンテープ</p>	外部講師
20:00	<p>【活動5 星座鑑賞】（雨天のため体育館でプロジェクター投影） ・男子：シャワー⇒星座鑑賞</p>	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
21:00	・女子：星座鑑賞⇒シャワー		
6:00	起床・身仕度・片付け・清掃		学校
8:00	<p>【活動6 非常食体験】(会場：食堂) 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置</p>		
8:00			学校
9:10	【活動7 レクリエーション】		
9:10	閉校式 滝谷森林公園へ移動		学校
9:30	<p>【活動8 川を学ぼう】（会場：滝谷森林公園） ※学校での事前学習⇒理科「流れる水の働き」を2学期始めに学習。 【学習してきた内容】 ・学校築山で実験し、カーブの内側と外側で違いがあることに気付く。 ・カーブの内側と外側の違いは川の流れる速さによって起こると仮説を立てる。 ・仮説を確かめる実験方法を考え、必要なものを製作する。</p> <p>①滝谷森林公園で川の特徴をつかむ。サンダルに履き替え浅いところに入る。 ②川のカーブの内側と外側の違い、流れる速さの違い、上流の石の大きさや形を実験（板に乗せた砂の流れる量）や観察を通して学ぶ。 ③川のカーブの外側に堤防が作られていることから、理科の学習と防災を結びつける。</p>		学校 外部サポート
11:15	④サンダルから靴に履き替えてバスに乗る。		
11:15	滝谷森林公園出発		

当日の様子



内の倉ダム見学



新発田地域の災害の歴史を学習



非常用持ち出し品を話し合い



消防署員による搬送体験



消防署員から学ぶ心肺蘇生法



サバイバルクッキング体験



星空観察（雨天のため映像）



避難所体験（就寝準備）



加治川で川の流れの実験

参加した児童の感想・気付き

- ・災害時でも、私たち子どもができることが意外とあることが分かった。小さい子どもや老人に先をゆずり、少しでも多くの命を救いたと思った。
- ・避難所では、みんなが場所をゆずり合ったり、消灯時間やねる時間を決めたりするなど、ルールを決めて協力することで、小さい子からお年寄りまで安心して暮らせることが分かった。
- ・災害時には、人まかせにせずみんなで支え合いながら過ごすことが大切だと分かった。自分にできることは進んで行き、他の人の力になりたいと思った。

参加した先生の声

- ・5年生の子どもたちにとって、初めての体験ばかりで、興味をもって聞き、意欲的に活動できた。学ぶことが多く、国語の学習と関連付けて考えている子どももいた。
- ・5年生にとって初めての宿泊を伴う体験活動でした。災害が起きた時のために行う活動で、子どもたちは学ぶ楽しさを感じながら仲間と協力して過ごすことができました。学ぶ楽しさはレクリエーションや自由時間から生まれる楽しさよりも大きいことが、子どもたちを見てよく分かりました。
- ・どの活動にも意欲的に取り組んでいました。防災教室から帰ってからおうちの人と自宅の非常用持ち出し品を用意したという話を聞きました。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>新発田市の中心部に位置する。学級数24学級、全校児童528名の学校である。保護者や地域は協力的で、学校の教育活動や子どもたちの安全安心な環境づくりのために、多くの支援をいただいている。</p> <p>地域で起こる可能性の高い災害は、地震とそれに伴う災害である。新発田市ハザードマップによると月岡断層を震源とする地震が起きた場合は、震度6強の揺れが発生する可能性がある。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>当校は、火災、地震災害に伴う引き渡し、不審者侵入を想定した避難訓練を想定し行っている。しかし、災害はいつ、どこで起きるのか分からない。学校で学習した安全で敏速に避難する知識や技能を身に付け、災害時に自分の命は自分で守ることができるようになってほしいと考えている。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に必要な知識、技能を身に付ける。 ・命を守るために自ら判断し、自分の命は自分で守る。 ・自分も地域に役に立っている、地域を守ることができる。 <p><5年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所体験を通して、助け合い協力しあう態度を養う。 ・非常時にどのような行動をとるべきかを考える。 ・自分や周りの人々を守る知識や方法を身に付ける。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内の倉ダム見学を通して、ダムの働きを学習する。 ・非常食として救給カレーを試食する。 ・非常用持ち出し品についての話し合いと新聞紙でスリッパを製作する。 ・避難所生活の過ごし方・振り返り。 ・ビニール袋を活用した調理体験（ポテトサラダ、ごはん、スープ）。 ・水消火器体験、心肺蘇生法とAEDの使い方の実習、毛布を使った搬送体験を行う。 ・川のはたらきと堤防のはたらきを現地で学ぶ。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・一泊二日で5年生の防災教室の実施 ・年1回の避難訓練後の引き渡し訓練（家庭との連携）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あかたにの家での活動内容について、全校朝会で学んだことを他学年に発表する場を設定し、次の5年生に確実に引き継ぐ。 ・防災教育プログラムを活用した授業の継続。

新発田市立御免町小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年				防災教育プログラム (地震災害) (津波災害)				防災教育プログラム (洪水災害)		防災教育プログラム (雪災害)		
第2学年				(津波災害)			(洪水災害) (土砂災害)			(雪災害) (原子力災害)		
第3学年				(地震災害) (津波災害)			(洪水災害)			(雪災害)		
第4学年				(津波災害) (原子力災害)			(洪水災害) (土砂災害)			(雪災害)		
第5学年				(地震災害) (津波災害)		防災教室	(洪水災害)			(雪災害)		
第6学年				(津波災害) (原子力災害)			(洪水災害) (土砂災害)			(雪災害)		

新発田市立二葉小学校の事例

日 時	平成 29 年 7 月 6 日 (木) 9:00 ~ 7 日 (金) 14:30 (一泊二日)
場 所	あかたにの家、二葉小学校、二葉小学校地域
学 年	第4学年 45人
引 率	教員 5人、保護者ボランティア
外部講師	7人、地域の方 複数人
ね ら い	<p>(1) 過去の洪水災害を知り、川や雨等の自然から日々受けている恵みと時に発生する災害について理解し、二葉地域で生活をする人として、自然と一緒に生きていくために大切な心構えを学ぶ。</p> <p>(2) 地域の諸団体、学校、社会福祉協議会、行政機関、PTA等の協働により、地域の子どもと大人の顔の見える関係づくりを目指す。</p> <p>(3) 防災の視点による学校での宿泊体験活動を通して、子どもたちが楽しみながらも工夫すること・協力すること・他人を思いやることの大切さを学び、自然災害に備える意識を高める。</p>

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	二葉小学校出発		
10:00	あかたにの家到着 【活動1 災害からの身の守り方】 (会場：体育館) (講師：慶應義塾大学 SFC 防災社会デザイン研究会) ・アクティビティ ・災害からの身の守り方 災害発生時の小さい危険・大きい危険について、クイズ形式で学び、緊急地震速報が鳴った時の身の守り方を体験する	ランタン ペットボトル・LED ランタン ・紙コップ 2 個×人数 はさみ・プロッキー×班数	外部講師
12:30	【活動2 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
13:00	休憩		
13:30	午前の活動振り返り		学校
13:50	【活動3 避難所生活を乗り切る準備をしよう】 (会場：体育館) (参考P. 109) ①あかたにの家で明日の朝まで避難所生活をする事を伝え、避難所生活をする際、どのようなことに困るか班で話し合い発表。 ②“避難所にあるもの”と“自分たちが持ってきたもの”を合わせて、工夫して解決策を班で考え発表。 ※ホワイトボードにまとめる。 ③「避難所生活を乗り切るためには、全員で協力しなければならぬ」ことを押さえ、「3つの班に分かれて役割分担し、班ごとに活動する」ことを伝える。 ○物資班 ・備蓄してあるものの数量を確認して、プリント(在庫表)に書き込む。 ・水とウェットティッシュ等の衛生用品を、各班に何個ずつ配るか決め準備。 ・使える水は備蓄してあるペットボトルの水(飲み水と飲めない手洗い用)のみ。識別ができるように印をつける。 ○環境・衛生班 ・周りへの気づかい、ケガ人や具合が悪くなった人がいたら、先生に報告すること。 ・ゴミ捨ての分別ルールを決めて、ゴミ袋を設置する。 ・寝る場所を決める。 ・暗くなる前に暗い場所(トイレ)に、懐中電灯やランタンをセットする等話し合う。 ○生活ルール班 ・避難所はみんなで過ごす場所なので、寝る部屋・消灯時刻・避難所での生活ルールを決め、ルールを模造紙に書いて、みんなが見える場所に貼り出す。	備蓄品 毛布×人数、大きめの段ボール×50箱、模造紙・A3用紙・セロテープ・ガムテープ・ビニール袋(70ℓ 10枚入り)・工作用ハサミ・プロッキー、洗面器またはバケツ×5個、ウェットティッシュ・手回しラジオ付き懐中電灯・電池式ランタン(電池含む)・うちわ・ペットボトルの飲料水 1人1本(2ℓ)・飲めない水 2人で1本(2ℓ)・夕食用の食材・塩分補給用の飴、バケツ×6個、雑巾等 ※その他会場内のものを施設職員に確認し、活用可とする	外部講師
16:00	④各班の活動の報告 ・みんなで決めたルールを守って生活することを約束させる。		

時間	内容(★留意点)	準備品	担当
16:30	【活動4 サバイバルクッキング】 (会場：食堂) (参考P. 111～112) ※各班に新発田市食生活改善推進委員(15人)に入ってもらおう。 ①全体で作り方を簡単に説明した後、各班で食推さんを中心に体験。	食材(班の分量に切り分けておく)・鍋・コンロ・アイラップ・ゴミ袋	外部講師
18:30	②煮ている間に机の上を整理し、紙食器を作り、完成したら紙食器を使って食べる。	紙食器	
19:00	★廊下のコンロ・鍋のところに必ずスタッフがいて安全管理を行う。	新聞紙2枚×人数	
19:20	【活動5 羽越水害を学ぼう】 (会場：体育館) (語り部：二葉ネット) ・ゲストティーチャーによる加治川洪水の歴史や羽越水害50年に関連した話を聞き、自分たちの住んでいる場所でも災害が起こることを自覚する。		学校 語り部
19:50	・感想を発表。		
19:50	【活動6 ホタル観察】 (会場：赤谷地域)		学校
20:10	ペットボトルランタンを持ち、あかたにの家周辺を歩く。		
20:10	就寝準備・フリータイム ・体育館で寝る場所を決め、どのような寝床を作るか考えさせる。	段ボール×50箱・汗拭きシート・ドライシャンプー・歯磨きシート等	学校 外部講師
21:00	・汗拭きシート、ドライシャンプー、歯磨きシート等の使い方説明、体験。		
6:00	起床・身仕度・片付け・清掃・ラジオ体操		学校
8:00	★自分たちで決めたルールを守り、集団で生活する。		
8:00	【活動7 朝食(分け合う体験)】 (会場：食堂) ★人数より少ない食事をどのように分けるか子どもたちに話し合わせ、ゆずりあい、助け合うことを体験する。	パン・バナナ・牛乳・ゴミ袋	学校 外部講師
8:30			
8:30	これからの活動の説明 ・子どもの居住町内会(または近隣地域)単位で集まり、まち歩きをするときに調べる視点や地図の書き込み方を伝える。(チェックリストを配付する。)	ハザードマップ・まち歩きチェックリスト・町内単位のA3地図×班数	学校
9:00	あかたにの家出発		
9:50	町内の班に分かれ、それぞれ町内の集合場所で下車。地域の方と合流。		
10:00	【活動8 自分の地域を知ろう】 (会場：二葉小学校地域) (まち歩きサポート：二葉ネット、民生児童委員等) ・地域の方と一緒に自分の地域を歩き、地域の方から安全管理や大雨の時の浸水しやすい場所を教えしてもらいながらまち探検をして、分かったことを地図に書き込む。 ※調べる視点 ・避難時の危険箇所 ⇒ 浸水しやすい場所、ふたの無い大きな水路や側溝、田んぼ道、アンダーパス等 ・避難場所の候補 ⇒ 土地が高く広い場所(公園、広場)や丈夫な建物(学校、公民館)等 ・1人で避難することが困難な人が多いところ ⇒ 病院、保育園、老人福祉施設等 ・困った時助けてくれる人がいる場所 ⇒ 消防署、警察、病院、こども110番の家等	探検バック・筆記用具・飲料水(500mlのスポーツドリンク1人1本)・帽子・ポラロイドカメラ(またはデジカメ)×班数	まち歩きサポート
11:20			
11:30	【活動8-2 分かったことのまとめ】 (会場：二葉小学校) ①各班でまち歩きで調べてきたこと・撮影した写真を大判の地図にまとめる。 ②危険箇所を避けて、避難場所への避難経路を考えさせる。	白地図(A1サイズ程度)・プロッキー・セロハンテープ・丸シール4色(小)・付箋紙×班数	外部講師
12:20	③発表の準備をする。		
12:30	昼食(二葉サークル、おやじの会、保護者の方からの炊き出し)		保護者
13:00	★これまでの食事と比べて、食事のおいしさ、普段通りの生活のありがたさを実感させる。		
13:45	【活動9 発表・活動全体の振り返り】 (会場：二葉小学校) ・地図にまとめた内容を班で発表する。 ・2日間の活動を通しての感想、分かったことから、新発田地域で自然と共生して生きていくために大切だと思うことやこれから気を付けること等を考え、発表させる。		外部講師
14:30	・全体のまとめをして活動終了。		

当日の様子



緊急地震速報が鳴った時の身の守り方



ペットボトルランタン作り



避難所の困りごとを考える活動



班ごとに避難所の準備活動



寝床作り



サバイバルクッキング体験



地域・保護者の方とまち歩き



マップ作り

参加した児童の感想・気付き

- ・災害のときに避難所にいる人は大変だと思った。できれば、みんなの役に立つことをしてあげたいと思ったし、食べ物を分けてあげたいです。
- ・私は、いざ災害が起こった時に、冷静に対処できるように、教えてもらったことを忘れないようにしたいです。
- ・私は、水などが使えないととても困るということが分かりました。水がないと手も洗えなくて、病気になりやすいことも分かりました。ランタンの作り方も教えてもらったので、家で作ってみたいです。寝るときはマットだけだとゴツゴツしていて、あまり寝れませんでした。避難準備をして命を落とさないようにしたいです。

参加した先生の声

- ・ボランティアの保護者や学生さんの協力で安心して子どもの活動を見守ることができてよかったです。
- ・学校の力だけではできないサバイバルクッキングや地域の危険箇所を見付ける地域巡検ができました。また避難所体験も専門家の方たちのサポートをいただきました。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>清流・加治川が地域を流れ、広々とした田園と近代的な町並みとを併せもつ環境の中で、学校教育目標「たくましく生きる 二葉っ子」の具現、特に「いのちを大切に、守る教育活動」を目指し、家庭や地域と連携して取り組んでいる。</p> <p>現在 13 学級に 270 名の児童が在籍している。保護者や地域は学校の教育活動において非常に協力的であり、学習支援ボランティアには多くの人が協力する。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>二葉小学校区は、昭和 41 年、42 年と 2 年続けて水害による浸水を受け、地域は避難や集団移転を経験している歴史がある。さらに新潟地震から 50 年、中越地震から 10 年という節目の平成 26 年度に完成した新校舎での避難の在り方を見直す必要が出てきた。そこで二葉小学校では、様々な教訓を風化させないように、子どもに「いのち」の大切さについて学習する機会を設けたい。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>○自他の生命を尊重する子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面でも、自分で考え、自らの命を守る行動ができる子ども ・困っている人がいたら、進んで力を貸すことができる子ども
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区にある 15 町内会や民生児童委員会、「おやじの会」「二葉サークル」など、学校に関わる様々な団体をネットワーク化した「二葉ネット」を立ち上げた。 ・「二葉ネット」会議を年間 5 回開催した。 ・保護者や地域の人材を活用した防災キャンプや防災に関する授業を実施した。 ・地域の防災担当者のガイドに従って、子どもが自分の住む地域の防災マップを作成した。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と一体となった同時刻一斉避難訓練 ・一泊二日の防災キャンプ（4 学年） ・グラウンドでのテント泊体験（夏休み希望者） ・全学級県の防災教育プログラムを活用した授業参観日 ・新潟地震発生日に合わせた引渡訓練
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」の大切さについて学習する機会を教育課程に位置付ける。 ・「二葉ネット」会議を、年間行事計画に位置付け、目指す子ども像の確認や、様々な教育活動の成果と課題を共有する。 ・防災教育に関わる年間指導計画を作成・配付し、見通しをもった協力体制作りを進める。

新発田市立二葉小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	避難訓練 火災	県防災教育プログラム 洪水災害編	引渡訓練 県防災教育プログラム 地震災害編	防 災 キ ャ ン プ	親子キャンプ・グラウンドテント泊	親子防災教育プログラム	県防災教育プログラム 土砂災害編	学校・地域一斉避難訓練 地震 県防災教育プログラム 津波災害編	避難訓練 火災または不審者	県防災教育プログラム 雪災害編		
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

新発田市立松浦小学校の事例

日 時	平成 29 年 7 月 18 日 (火) 9:00 ~ 14:30 (日帰り)	場 所	あかたにの家
学 年	第 4 学年 10 人	引 率	教員 3 人 外部講師 1 人
ね ら い	災害が起きた時の避難生活の一部を体験するとともに、簡単なけがの手当や役立つロープワークを体験する。		

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	松浦小学校出発		
9:30	あかたにの家到着 オリエンテーション (会場：和室) ・施設の使い方や諸注意等について 【活動 1 応急手当】 (会場：食堂) (講師：日本赤十字社防災ボランティアリーダー 齋藤 敏郎氏) ・鼻血の止め方、やけどの対処方法を学ぶ。 ★状況をまず観察することが大事。二次災害を防ぐこと。 ★鼻血はティッシュ等を鼻につめない。鼻をつまみ、ひやすこと。 9:50 ★やけどはまずひやす。1/3 以上やけどすると命に関わるので、注意すること。		学校 外部講師
9:50	【活動 2 サバイバルクッキング】 (会場：調理実習室) (参考 P. 111 ~ 112) ・ご飯を炊き、待ち時間にじゃがりこポテトサラダを作る。 ・食事 ・片付け ★被災地ではゴミがたくさん集まる。おはし、ビニール袋等、分類ごとにまとめること。	じゃがりこ・コーン缶・ツナ缶・弁当箱・おはし (学校)、アイラップ・鍋・ゴミ袋 (救給カレー・乾パンはおみやげ)	外部講師
12:30	【活動 3 応急手当 2】 (会場：研修室 2) ・齋藤さんから、熱中症、応急手当の仕方を教わる。 ★救急とは、①救う②急ぐ。順番を守ること。 ★熱中症の場合、ぬれたタオル、保冷剤をまいたタオル、凍らせたペットボトル等で、首筋、脇の下等冷やす。 13:30 ★傷口はティッシュを使用せず、清潔なガーゼやハンカチで止血すること。	タオル・ハンカチ・ペットボトル	外部講師
13:35	【活動 4 ロープワークを体験しよう】 (会場：研修室 2) ・本結び、巻きつり結び、もやい結び等、救助の際や避難生活で役立つロープワークを体験する。 14:20 ★技術も大事だが、まず状況を観察すること。	ロープ	外部講師
14:20 14:25	感想発表		学校
14:25 14:30	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



応急手当（鼻血）



サバイバルクッキング体験



応急手当（熱中症）



ロープワーク体験

参加した児童の感想・気付き

- ・もしも災害がおこった時に、自分でいろいろな料理の仕方を知っておくと役立つことがわかった。
- ・ロープワークは、むずかしかったけれど、本結びとか、ふつうの生活でも使えるから覚えておきたい。

参加した先生の声

- ・防災キャンプは昨年度も経験させていただいた。正直、去年は計画を立てる段階で、何をしたらよいか戸惑ったが、今年度は活動の流れや準備することが分かり、安心して実施することができた。
- ・講師の先生からの協力が、とても大きかったと思う。事前準備や当日の段階からアドバイスをいただいたことにより、調理や他のプログラムも円滑に実施でき、教員、子どもともに満足のいく活動を展開できた。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学区は、新発田市の南端に位置し、五頭連峰の流れが、蒲原平野に注ぎ込んで形成された扇状地に立地している。地域のほぼ中央を国道290号線が縦貫し、49号線と7号線を結ぶ幹線道路として産業的にも観光的にも年々交通量が増加してきている。全校児童数は79名（7学級）であり、年々減少の傾向にある。校区は広く、4分の1近く（22名）の児童がスクールバスで通学している。</p> <p>地域で起こりうる可能性の高い災害は、地震、水害である。学校付近の土地が低くなっており、集中豪雨が発生すると、道路や、近隣の田の多くが冠水することがある。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>当校における避難訓練は、学校にいるとき（授業中や休み時間）に起きる災害を想定して行っている。しかし災害はいつ何時おそってくるか分からない。学校で学習した避難のしかたや、防災に関する知識をどこにいても活用し、自分の身を守ることができるようになってほしいと考える。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>自ら危険を予測し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できるようにする。 （判断力・行動力）</p> <p>進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができるようにする。 （貢献する態度）</p> <p>災害発生メカニズムや地域の防災体制について理解し活用できるようにする。 （知識の取得と活用）</p>
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>4学年を対象に、新発田市の青少年宿泊施設「あかたにの家」で、1日防災体験学習を行った。赤十字安全奉仕団の方を講師に、非常食作りと試食、簡単なけがの手当の仕方、災害救助に役立つロープの結び方について学習した。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<p>4学年を対象に、「あかたにの家」で1日防災体験学習を行う。施設の方や、赤十字安全奉仕団の方から協力をいただき、施設の中の防災設備を見学したり、防災食を作ったりする等、非常時に役立つ実践的な活動を行う。</p>
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<p>1日防災体験学習を年間行事予定に位置づけ、「あかたにの家」の使用申請を行う。また、赤十字安全奉仕団に連絡を取り、協力を仰ぐ。</p>

新発田市立五十公野小学校の事例

日 時 平成 29 年 6 月 20 日 (火) 9:00 ~ 14:50 (日帰り) **場 所** あかたにの家、赤谷地域

学 年 第 4 学年 55 人 **引 率** 教員 5 人 **外部講師** 4 人

- ね ら い**
- (1) 過去の洪水や地震等の災害を知り、自然から日々受けている恵みと時に発生する災害について理解し、五十公野地域で生活をする人として、自然と一緒に生きていくために大切な心構えを学ぶ。
 - (2) 防災の視点による体験活動を通して、子どもたちが楽しみながらも工夫すること・協力すること・他人を思いやることの大切さを学び、自然災害に備える意識を高める。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	五十公野小学校出発		
9:30 9:40	あかたにの家到着 オリエンテーション (今日の活動の流れ) 【活動 1 赤谷地域の自然散策】 (会場: 体育館・赤谷地域) (参考 P. 97)	自然散策 チェキ (インスタントカメラ) × 2 班で 1 台 赤谷地域の地図・A4 用紙 × 班数 探検バック・水筒・筆記用具・帽子 (各自) セロハンテープ・プロッキー・サインペン × 班数	外部講師
11:20	①自然の恵みと災いについて知る。 ②活動の説明、班内の役割、観察時の注意点を伝え、出発する。 ★自然散策をするときに、自分の地域との違いに着目させ、自分の地域にない植物や風景を探すことを押さえる。 ★赤谷のいいところの写真を 1 人 1 枚撮る。写真をとった場所は地図に印を付ける。 ★散策する際は、班ごとに 2 列で歩く。児童の安全管理に留意する。 ～自然散策～		
12:00	③自分が撮った写真のいいところを、フィルムの下部に書き、地図に貼り付けて、位置情報と写真を結び付ける。 ④見つけたいところを各班から発表させる。 ★豊かな自然とともに生活するということは、自然に近づいて生活をしているということ。自然災害に遭う可能性も高いことを伝え、午後からは防災について学習することを伝える。		
12:15 13:20	【活動 2 非常食体験】 (会場: 食堂) 昼食準備、昼食、休憩 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
13:20 13:40	【活動 3 午前中活動の振り返り】 (会場: 体育館) ①午前中の活動を想起させ、感想を発表。 ②避難所の様子について写真資料を見る。 ③ものがないときには身近なものを工夫する大切さを伝える。	振り返り用ワークシート × 人数	外部講師
13:40 14:40	【活動 4 防災グッズ・身近なものを活用した工夫】 (会場: 体育館) (参考 P.101、103 ~ 105) ①避難所での困りごとについて伝える。 ② 2 班に分かれて体験活動。 ・新聞紙スリッパ ・ビニール袋で雨がっぱ ③振り返り・まとめ (ワークシート) ★避難所の課題を知り、自分たちにできることを考える。 ★実際に身近なものに工夫を加えることで、防災グッズが作れることを経験させる。 ★新聞紙スリッパは、衛生面や防寒にも役立つことを伝える。	スリッパ 新聞紙 2 枚 × 人数 雨がっぱ ゴミ袋 45 ℓ 2 枚・ハサミ・油性マジック × 人数	外部講師
14:40 14:50	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



赤谷地域の自然散策



赤谷のいいところマップ作成



非常食体験



新聞紙スリッパ作り



ビニール袋で雨がっぱ作り



避難所について学習

参加した児童の感想・気付き

- ・ <赤谷地域の自然散策について>
いろいろな植物や虫がいて、赤谷は自然がいっぱいだと思いました。
- ・ <非常食について>
カレーとかんパンはすごくおいしくて大好きになりました。いろんな非常食が出ていると思いました。
- ・ <防災グッズ>
スリッパや雨具はかん単なので、さい害の時作りたと思いました。みんなと協力できてよかったです。

参加した先生の声

- ・ 自然散策では歩きながら植物のことをたくさん教えていただき、自然にふれることができたのが良かったです。
- ・ 防災グッズ作りでは、丁寧に教えていただきとても分かりやすく子どもたちにとっても良い活動だと思いました。

<新発田市立五十公野小学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>新発田市の中心から東よりに位置する学級数15学級・全校児童数311名の学校である。平成30年度に米倉小、松浦小と統合するため、平成29年度末で閉校を迎える。</p> <p>保護者や地域は協力的で、学校の教育活動や子どもたちの安心安全な環境づくりのために、多くの支援をいただいている。</p> <p>地域で起こりうる可能性の高い災害は、地震とそれに伴う土砂災害である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>当校における避難訓練は、学校にいる時（授業中や休み時間）を想定して行っている。しかし、災害は子ども達が登下校している時や自分の家にいる時など、学校外で起こる可能性も考えられる。地域の自然環境や避難場所、避難方法等について知るとともに、災害時、どこにいても自分の身を自分で守れる子に育てていきたいと考える。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の命を大切にする子 ・災害や防災に関する正しい知識や技能を身に付ける子 ・命を守るために自ら判断し、安全な行動ができる子 ・友達や地域のために進んで行動し、共に助け合う子
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常食としてのアルファ米とレトルトカレーを試食する。 ・学校以外の場所でも、放送の指示通りに避難場所に集合する。 ・新潟県防災教育プログラム「地震災害編」をもとに、地震の危険性について考えたり、発生時の身の守り方について考えたりする。 ・川が増水した場合の避難の仕方や川での活動の注意事項を知る。 ・川の流れに逆らわず、安全に救助を待つ方法を体験する。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回の地域子ども会において、各地域の危険箇所を確認した後、教師が同行して集団下校を行う。 ・4年生が、青少年宿泊施設「あかたにの家」において、自然体験活動や防災教育を行う。→来年度からは宿泊を予定している。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の危険箇所や避難場所等について、児童や保護者だけでなく職員間においても共通理解を図る。 ・「あかたにの家」での活動内容について、校内で周知報告するとともに次の4年生に確実に引き継ぐ。

新発田市立五十公野小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災教育
プログラム
(洪水災害編)
(土砂災害編)
(地震災害編)

防災教育
プログラム
(雪災害編)

年間3回の避難訓練
およびベル訓練

あかたにの家
ネイチャースクール

自然体験宿泊学習における
避難方法や防災教育

修学旅行（公共交通機関、旅先
における避難方法や防災教育）

防災教育
プログラム
(洪水災害編)
(土砂災害編)

防災教育
プログラム
(津波災害編)
(雪災害編)
(原子力災害編)

防災教育プログラム
(地震災害編)

新発田市立米倉小学校の事例

日 時	平成 29 年 9 月 6 日 (水) 9:00 ~ 14:15 (日帰り)	場 所	あかたにの家
学 年	第 1 ~ 4 学年 28 人	引 率	教員 5 人
ね ら い	(1) 災害時における避難所生活を知り、避難所生活の課題を考え、自分だったらできることを経験し、災害に備える意識を高める。 (2) 「壁飾り」の活動を楽しみ、地域や人、自然のよさを感じる。		

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	米倉小学校出発		
9:15	あかたにの家到着 【活動 1 避難所の生活を知り、自分のできることを考え、実践しよう】 (会場：体育館) ※縦割り班 (4 ~ 5 人×6 班) で活動する。 1. 写真を使用して避難所の様子や避難所生活での困りごとを伝える。 (参考 P.106) ①災害時の避難所の写真資料等を見せて、避難所の様子・困りごとを伝える。 ②避難所での生活で、自分が一番困ると思うこと (心配なこと) を 1 人 1 つ考えさせ、班内で発表し合う。4 年生は A3 用紙に、発表内容を記入。 ③各班から、特に困ること・心配なこと・なぜそう思ったかを 1 つ発表させる。 ④写真を使用して、中越地震のときを例に、地域の人たちがどのようにして避難生活を乗り越えたかを伝える。	A3 用紙 2 枚×班数	外部講師
10:05			
10:15	2. 困りごとを解決する身近なもので作れる防災グッズを作りの体験 (参考 P.101、103 ~ 105) ①段ボールシェルター作り (班活動) ②新聞紙スリッパ作り (全体活動) ★身近なものを工夫した防災グッズ作りの体験を通じて、普段からの備えや準備の大切さを知る。	シェルター 段ボール 3 箱・段ボールカッター・ガムテープ・はさみ×班数 スリッパ 新聞紙 2 枚×人数	外部講師
11:10			
11:20	3. 活動の振り返り ①振り返りワークシートの記入、発表。 ②熊本地震の避難所で活躍していた小・中学生の様子を伝える。 ★避難所では「皆で協力すること・自分にできることを一生懸命頑張ること」を押さえ、今日体験したことを自宅に帰ったら家族に教えるよう伝えてまとめる。	振り返りワークシート×人数	外部講師
11:50			
11:50	【活動 2 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩		学校
12:30	班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	
12:40	【活動 3 壁飾り作り】 (会場：談話室) ①板に下絵を描く。 ※鉛筆で薄く		学校
14:00	②絵の具で色を塗る。	材料 (学校)	
14:00	終わりの会、記念撮影		学校
14:15	あかたにの家出発		

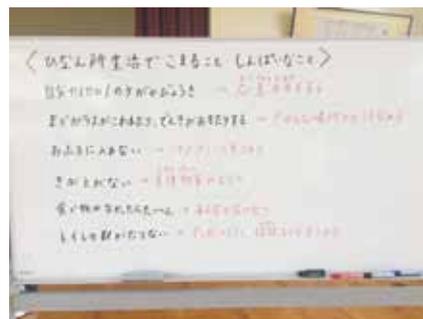
当日の様子



災害・避難所について学習



避難所生活の困りごとを話し合い



発表内容



新聞紙スリッパ作り



段ボールシェルター作り



壁飾り作り

参加した児童の感想・気づき

- ・災害がもし起こったとき、どうすればよいかを話したり、非常食を食べたりして、よかったです。
- ・新聞紙でスリッパを作りました。上手にできて、うれしかったです。お家に新聞紙がいっぱいあるので、お家で3足作りました。
- ・災害が起きたとき心配なことをみんなで話し合いました。そして、みんなで協力して段ボールシェルターを作ることができました。
- ・色をぬることがむずかしかったけど、壁飾り作りも楽しかったです。

参加した先生の声

- ・分かりやすい写真を使ったお話だったので、1～4年生も避難所の様子を知ることができ、避難所生活で、困ることや心配なことを考えて、話し合う活動ができました。
- ・段ボールシェルター作りは、子どもたちが協力する必要感があり、完成したときの喜びもあって、よかったです。子どもたちが段ボールシェルターの窓から顔を出すうれしそうな表情が、印象的でした。
- ・壁飾り作りは、地域の方の協力もあり、子どもたち一人一人が自分らしい作品を作ることができて、よかったです。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学級数5、全校児童41名の当校は「米倉小教育は共育で！」をコンセプトに充実した教育活動を実践している。平成29年度末で、閉校を迎える。</p> <p>保護者や地域の方々は温かく協力的で、学校の教育活動にも多くの支援をいただいている。</p> <p>地域で起こりうる可能性の高い災害は、地震や、集中豪雨等に伴う土砂災害、加治川の増水による水害である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>当校における避難訓練は、学校生活の中（授業中や休み時間）で起きる災害を想定し、実施している。しかし、災害は、登下校中や外出中、自宅で過ごしている時など、様々な状況で起こる可能性も考えられる。避難場所や避難方法等を知り、災害が起きた時は、どこに居てもどんな時であっても「自分の命は自分で守れる子」に育てていきたいと考える。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の命を大切にする子 ・災害や防災に関する正しい知識や技能を身に付ける子 ・命を守るために自ら判断し、安全な行動ができる子 ・家族や友達、地域のために進んで行動し、共に助け合う子
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p><1～4年生 防災教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県及び身近な地域の災害について学ぶ学習。 ・避難所生活について知る。 ・避難所生活の困ることや心配なことを考え、自分ができることを実践する。 ・段ボールシェルター作りや新聞紙スリッパ作りを体験する。 ・活動を振り返る。 ・非常食（救給カレー、乾パン）を体験する。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に地域委員の方々に地域の危険箇所を確認する。そして、7月に地区懇談会を行い、職員が各地区の保護者の方々と危険箇所を確認する。その後、地域子ども会において、子どもたちと地区の危険箇所について確認を行う。 ・1～4年生が「あかたにの家」で防災教育を行う。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、地区の危険箇所や避難場所については、地域の方々や保護者、児童や職員間でも共通理解を図る。 ・「あかたにの家」の活動内容については、統合も踏まえて確実に引き継ぐ。

新発田市立米倉小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災教育プログラムを活用した授業（洪水災害） + 避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業 + 避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業（津波災害）

「あかたにの家」を活用した防災教育

防災教育プログラムを活用した授業（地震災害） + 引き渡し訓練

防災教育プログラムを活用した授業（土砂災害）

防災教育プログラムを活用した授業（雪災害） + 避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業（原子力災害）

新発田市立川東小学校の事例

【日 時】 平成 29 年 6 月 27 日 (火) 9:00 ~ 15:15 (日帰り) 【場 所】 あかたにの家

【学 年】 第 4 学年 32 人 【引 率】 教員 3 人 【外部講師】 5 人

- 【ね ら い】 (1) 川や雨等の自然から日々受けている恵みと時に発生する災害について理解し、自然と一緒に生きていくために大切な心構えを学ぶ。
- (2) 防災の視点による体験活動を通して、子どもたちが楽しみながらも工夫すること・協力すること・他人を思いやることの大切さを学び、自然災害に備える意識を高める。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	川東小学校出発		
9:35	あかたにの家到着 【活動 1 自然の恵み、豊かさに気付く (加治川の紹介)】 (会場：体育館) ①川の恵みとして、加治川等で見られる生き物を紹介する。 ②豊かな恵みを受けているということは、自然に近づいて生活をしていることを確認し、自然とともに生きる人として学習の動機付けをする。		外部講師
10:30	【活動 2 地域のハザードマップを活用した学習活動】 (会場：体育館) (参考 P. 98) ①自地域の地図から川・主要道路・目印になる自分たちの知っている場所・自分の家の位置を探し、地図に書き込む。 ②ハザードマップから自地域で大雨が降ると、どのような危険が想定されているのか、どこが危険なのか、避難場所はどこを確認する。 ③自宅にいる時の避難場所や避難ルートについて話し合う。 ④班で話し合った結果 (どのようなことに気をつけてルートを考えたか、またはどのようなことに悩んだか 等) を発表。 ⑤大雨のとき (洪水災害等) の避難方法についてポイントを押さえる。 ・洪水災害は予想ができる。早めの情報収集 (テレビ・ラジオ等) をすること。 ・屋外に逃げるなら浸水前の早めの避難、浸水してからの屋外避難は危険。 ・普段から雨の降り方や川の様子を知っておく (自然の変化に敏感になること)。 ⑥振り返り 午前中の活動を振り返り、ワークシートに記入、発表。	【ハザードマップ学習】 学区地図・A3 ハザードマップ (カラー)・プロッキー× 班数 ワークシート×人数	
12:15	★振り返り後、活動 2 の時間中に外部講師が加治川より捕ってきた生き物を紹介。		
12:20	【活動 3 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩		学校
13:30	班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	
13:30	【活動 4 防災グッズ作り】 (会場：体育館) (参考 P. 101、103 ~ 105) ①避難所の様子の写真を見せる。課題を伝え、役に立つ防災グッズ作りをすることを伝える。 ②全体 (1 人ずつ) で新聞紙スリッパ作り ★新聞紙スリッパは、衛生面や防寒にも役立つことを伝える。身近なものを工夫することの大切さを伝える。 ③班に分かれて、班で 1 つ段ボールシェルターを作る。 ④普段からの備えや準備が大切なことを伝え、今日体験したことを自宅に帰ったら家族にも教えて、家族で防災グッズが作れるようにするよう伝える。	【スリッパ】 新聞紙 2 枚×人数 【シェルター】 段ボール 3 箱・段ボールカッター・ガムテープ・はさみ× 班数	外部講師
15:00	終わりの会、記念撮影		学校
15:15	あかたにの家出発		

当日の様子



加治川について学習



ハザードマップを活用した学習



班で話し合った結果を発表



加治川の生き物を観察



新聞紙スリッパ作り



段ボールシェルター作り

参加した児童の感想・気付き

- ・大雨で避難するとき、家の近くに川があるので流されそうだと思います。遠回りした方が安全に避難できるかもしれないと思いました。
- ・乾パンは、水分は少ないし固いので、食べにくかったです。でも、災害の時のためにがまんして食べたかったです。少しずつでも、非常食は家に置いた方がいいと思いました。
- ・新聞紙や段ボールで、避難所で役に立つものを作ることができると分かりました。新聞紙スリッパの作り方を覚えたので、家でも作りたいです。

参加した先生の声

- ・地図で自宅や川をマークし、ハザードマップから浸水エリアや避難ルートを考えることは、4年生児童にとっては少し難しいかと思われました。しかし、講師の方々の準備やご指導によって、児童は防災という視点で意欲的に話し合い、様々なことに気付くことができました。
- ・非常食や、避難所生活を想定したものづくりなど、普段の指導ではなかなかできない体験をすることができてよかったです。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>平成26年度に川東小、竹俣小、車野小が統合し、現在は10学級、全校児童188名の学校である。二王子岳を東に望み、加治川の恵みを受けた田園地帯にあり、児童は広範囲から通学している。</p> <p>保護者や地域は協力的で、学校の教育活動ボランティアへの参加や、登下校の安全見守りなどの支援をいただいている。</p> <p>過去に加治川決壊により水害を経験している（岡田地域）。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の安全を確保する。 ・学校や地域の中での「自分の命は自分で守る」意識を高める。 ・学校において避難訓練を確実に実施する。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にし、自分の命を守れるように判断して行動できる子 ・災害や防災について正しい知識や方法を身に付ける子 ・友達と助け合ったり、地域で協力したりする子
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加治川から受けている恵みと、時に発生する災害について理解し、自然と一緒に生きていくための心構えを学ぶ。 ・ハザードマップを利用して、自分達の地域で大雨が降った時の危険や避難方法について考える。 ・非常食としての乾パン、アルファ米とレトルトカレーを試食する。 ・避難所生活を想定し、身近な物で防災グッズを作りながら、協力することや他人を思いやることの大切さを学ぶ。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を年間に位置付けて実施する。 ・年間3回の避難訓練（年1回の非常ベル訓練）。 ・地域子ども会で、各区地域の危険箇所の確認を行い、教師と共に集団下校を行う。 ・4年生が「あかたにの家」において、自然体験活動や防災教育を行う。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の危険箇所や避難場所について、児童と教職員で確認するだけでなく、地域委員と連携したり、家庭に働き掛けたりしていく。 ・「あかたにの家」での活動内容について、次年度に確実に引き継ぐ。

新発田市立菅谷小学校の事例

日 時 平成 29 年 7 月 5 日 (水) 9:00 ~ 14:20 (日帰り) **場 所** あかたにの家

学 年 第 4 学年 12 人 **引 率** 教員 3 人 **外部講師** 3 人

ね ら い (1) 自地域の災害リスクを知り、災害発生時の対処行動や事前にできる準備を考える。
(2) 避難所の課題を知り、解決方法を体験する。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	菅谷小学校出発		
9:40 10:00	あかたにの家到着 はじめのつどい 【活動 1 地域のハザードマップを活用した学習活動】 (会場：体育館) (参考P. 98) 1. 自然の恵みと災いについて考える 川の恵みとして、加治川の役割、水辺の植物や生き物を紹介する。 ★豊かな恵みを受けているということは、自然に近づいて生活をしていることを確認し、自然とともに生きる人として学習の動機付けをする。 2. 地域のハザードマップを活用した学習活動 ①自地域の地図から川・主要道路・目印になる自分たちの知っている場所・自分の家の位置を探し、地図に書き込む。 ②ハザードマップから自地域で大雨が降ると、どのような危険が想定されているのか、避難場所はどこかを確認する。 ③自宅にいる時の避難場所や避難ルートについて話し合う。 ④班で話し合った結果 (どのようなことに気をつけてルートを考えたら、またはどのようなことに悩んだか 等) を発表。 ⑤大雨のとき (洪水災害等) の避難方法についてポイントを押さえる。 ・洪水災害は予想ができる。早めの情報収集 (テレビ・ラジオ等) をすること。 ・屋外に逃げるなら浸水前の早めの避難。・浸水してからの屋外避難は危険。 10:50 ・普段から雨の降り方や川の様子を気につけ、自然の変化に敏感になること。	A3 ハザードマップ (カラー)・ プロッキー×班数 ※時間の関係上、白地図は使わず、ハザードマップに直接印をつけていく	外部講師
11:00 11:55	【活動 2 防災レクリエーション】 (会場：体育館) (参考P. 99 ~ 102) ①災害時の写真資料等を使い学習の動機付けを行う。 ②班で協力して、体験コーナーを 2 つ体験する。 ・水消火器体験 ・毛布担架作りと搬送体験 ③体験の振り返りを行う。感想を発表させる。 ★自分の命を自分で守ることを確認し、自分の命を守った後はみんなで協力すること そして午後からは避難所体験を行うことを伝える。	水消火器 水消火器×6本+予備・カラーコーン×3個 (消火をする火元として使う) 毛布担架 毛布×6枚・担架用の棒×12本	外部講師
12:00 13:00	【活動 3 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩 13:00 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
13:00 14:00	【活動 4 防災グッズ作り】 (会場：体育館) (参考P. 101、102 ~ 105) ①避難所の様子の写真を見せる。課題を伝え、避難所で役に立つ防災グッズ作りを行う。 ②新聞紙スリッパ作り ③ビニール袋で雨がっぱ作り ④まとめ ★熊本地震の時の避難所の様子を紹介し、小学生でもできることがあることを押さえる。家庭に持ち帰り、家族と避難所を決めたり、グッズ作りを教えたりする等、日頃からの備えの大切さを伝える。	スリッパ 新聞紙 2 枚×人数 雨がっぱ ゴミ袋 45ℓ 2 枚・ハサミ・油性マジック×人数	外部講師
14:00 14:20	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



学区のハザードマップにマーキング



班で話し合った結果を発表



発表内容



消火器についての説明



毛布担架作り体験



熊本地震時の避難所について学習

参加した児童の感想・気付き

- ・ 菅谷にはいっぱい川があるので、水害の危険があることが分かった。高くて丈夫な場所に避難すればいいことが分かった。
- ・ 自分たちの地区は土砂崩れが起きやすいと分かった。どう避難するかルートを考えたので役立てたい。家族にも教えたい。
- ・ 毛布担架やビニール袋のカップなど、身近なものでできることに驚いた。毛布担架は、1分くらいで作れるから、すぐ助けにいける。
- ・ いろいろ勉強して、すごく楽しかった。

参加した先生の声

- ・ 子どもたちが楽しみながらも真剣に学んでいた。自分たちの地域の危険箇所を調べ、避難の仕方考えたこと、防災技能体験をさせてもらったこと、防災グッズを作ったことなど、どれも興味深く、学校では学べないことを学習できた。講師の先生方の温かいご指導が、子どもたちの心に響いていた。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学級数7、全校児童72名の当校は、「ともに笑顔で生き生き輝こう」を合い言葉に充実した教育活動を行っている。学区は市街地から10km北東に入った所であり、越後山脈（二王子岳）と櫛形山脈にはさまれ、国道290号線、坂井川に沿って14の地区が散在する。地域の生活意識は、伝統的なよさを多くもっている。</p> <p>当校の学区の大部分は沖積層上にあり、地震の際の流砂現象による地盤沈下、地下水の噴出などの二次災害が予想される。また、地震・集中豪雨により、坂井川が氾濫し、校地及び周辺地域が浸水し、被害が発生するおそれがある。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 登下校の安全確保 * 地域の実態を踏まえた防災教育の実施 * 自ら考えて身を守るための適切な行動を取ろうとする力の育成 * 学校・家庭・地域が連携した災害発生時の安全確保
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 命を大切にし、日頃から安全を意識して、友だちと仲良く生活することができるようにする。 * 災害や防災に関する正しい知識や技能を身に付けさせる。 * 災害のときに起こる様々な危険について知り、自ら適切な行動がとれるようにする。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>4学年を対象に、「あかたにの家」で、1日防災体験学習を行った。</p> <p>「土砂崩れ等災害の被害実態を知ると共に、避難生活を考える。」というねらいの下、防災グッズ作り、避難所体験、防災マップ作り等の活動を行った。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 防災教育プログラムを活用した授業の実施 * 4年生防災キャンプの実施 * 年3回の避難訓練 * 年1回の引き渡し訓練（家庭との連携）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 防災教育プログラムを活用した授業の実施と評価 * 4年生防災キャンプの確実な実施 * 災害発生時の状況に即した避難訓練計画の立案・実施 * 防災に関する取組についての家庭・地域への情報提供・協力の呼びかけ

新発田市立菅谷小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災教育プログラムを活用した授業 (津波災害)

防災教育プログラムを活用した授業 (地震災害) + 避難訓練

防災キャン
プ+防災教
育プログラ
ムを活用し
た授業

防災教育プログラムを活用した授業 + 引き渡し訓練

防災教育プログラムを活用した授業 (洪水災害)

防災教育プログラムを活用した授業 (土砂災害) + 避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業 (雪災害) + 避難訓練

防災教育プログラムを
活用した授業
(原子力災害)

新発田市立七葉小学校の事例

日 時	平成29年9月21日(木)10:30～22日(金)14:00(一泊二日)	場 所	あかたにの家、七葉小学校
学 年	第4学年 17人	引 率	教員 4人 外部講師 3人
ね ら い	(1) 災害の被害実態をとらえるとともに、災害から生き抜く力を育む活動ができる。 (2) 避難所体験をとおして、助け合い協力し合う態度を養うことができる。		

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
10:30	七葉小学校出発		
11:00 12:00	あかたにの家到着 開校式 施設探検		学校
12:00 14:00	【活動1 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
14:00 15:30	【活動2 災害について学ぼう】 (会場：研修室2) (参考P. 108) (語り部：渡辺光一氏) ①羽越水害のお話(被害の状況、感じたこと、復興の様子等) ②振り返り ③①のお話であったハザードマップを再度確認し、自宅に一人である時に大雨が降ってきたときどのように行動するか班で考え、発表する。	被害写真 しおり×人数	学校 語り部
15:30 17:00	【活動3 避難所体験活動の準備をしよう ～楽しく作ろう1～】 (会場：体育館) (参考P. 105) ・LEDミニランタン作り(親子行事)	作り方の用紙・工作マット・はさみ・カッター・じょうぎ・LEDライト・電池・工作用紙・カラーセロハン×人数 セロテープ・両面テープ・ブロッキー×班数	学校
17:00 18:00	【活動4 避難所体験活動の準備をしよう ～楽しく作ろう2～】 (会場：体育館) ・段ボール壁(ハウス)作り 段ボール壁を作り、寝る場所の準備をする。	段ボール・ガムテープ・はさみ・ブロッキー×班数 毛布・マット×人数	学校
18:00 19:00	【活動5 避難所の食事を体験しよう】 ・アルファ化米 ・豚汁 保護者ボランティアさんが作った食事をいただく。	食材(学校)・ゴミ袋・食器	学校 保護者
19:00 20:30	【活動6 避難所で分け合う体験をしよう】 (会場：体育館) ①災害時の避難所の写真を見せて、以下の点を押さえる。 ・避難所は、赤ちゃんからお年寄りまで、みんなで生活をする場所だということ。 ・食べ物はずぐには届かない。みんなで協力して助け合わなければいけないこと。 ②班で持ち物を分け合う方法を考える。 1)「食料カード」と「家族構成カード」を各1枚ずつ配り、班でそれぞれの持ち物を「どのように分けるとよいか」を話し合わせる。※食料の数量は全員分ない。 2) 班内でどのように分けたのかを記入させ、発表。 ③避難所での困りごとを伝え、身近なものを活用した解決方法を伝え、毛布担架作りと搬送体験を行う。	食料カード・家族構成カード×人数 ワークシート・ブロッキー×班数 毛布担架 毛布×6枚、担架用の棒×12本	外部講師
21:00	宿泊		学校

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
6:30 7:30	起床・身支度・片付け・清掃		学校
7:30 8:30	【活動7 非常食を食べよう(朝食)】 非常食(朝食)をどのようにして分けて食べるか相談する。	缶詰パン・野菜ジュース・ バナナ・ゴミ袋	学校
8:30 9:30	【活動8 避難所生活でホッとしよう】 (会場:共用スペース)(参考P.106) ①避難所では気持ちが沈んでいる人たちも大勢いる。どのようにすれば、少しでも元気づけることができるだろうかと問いかける。 ②避難をしている人は、それぞれ抱えている悩みや不安が違うことを伝えて、人は心が安らぎ、「モヤモヤを言葉として自然に伝えられる(吐き出せる)」ようになると、少しずつ気持ちが前向きになることを伝える。 ③写真等を使用し、阪神淡路大震災から続いている「被災地での足湯」について紹介し、2人1組で体験することを伝える。 ④足湯のやり方を実演、紹介する。 ・お話をする人:「足湯を体験する人」、 お話を聞く人:「ハンドマッサージをする人」 ・お話をする人は、最近楽しかったこと・悲しかったことを伝える。 ・お話を聞く人は、話してくれた内容にうなずいたり、その気持ち分かるよと相手の気持ちを尊重したり、お話をする人が少しでもリラックスできるように心掛ける。 ・お話を聞いた内容と自分が感じたことを「つぶやきカード」に書く。 ※つぶやきカードはA5サイズのメモ 「体験した人の性別・年代・お話してくれたこと・気付いたこと・記入者の名前」を書く。 ⑤2人1組で「足湯を体験する側とマッサージをする側」を5～6分ずつ体験し、相手が話してくれたこと・自分が思ったことをカードに書く。 ⑥体験しての感想や気付きを発表。 ⑦避難所での足湯で実際にどのような効果があったのか、避難所での体験談を伝え、まとめる。	差し湯用の手桶×5個・電気ポット×3個・洗面器×10個・ブルーシート×3枚・紙コップ×人数・布ガムテープまたは養生テープ×3個・ペットボトルの水2ℓ×3本、入浴剤×1個、椅子×10脚・つぶやきカード×人数 フェイスタオル×人数(足ふき用)	外部講師
9:30 10:30	清掃・片付け・終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校
11:00 14:00	七葉小学校到着 学校で振り返り		学校

当日の様子



羽越水害について学習（語り部）



親子でLED ランタン作り



保護者による炊き出し



カードを使い、食料を分け合う体験



段ボール壁で寝床作り



毛布担架作りと搬送体験



足湯体験

参加した児童の感想・気づき

- ・ 班のみんなと食べ物を分ける時に、頭を使って、カンはどうやって開けるか、バナナはどうやって分けるかを考え、とても勉強になりました。避難所生活に備えて準備したり、自分ができることを考えたりします。
- ・ 足を湯につけながら、マッサージをしてもらったことがおもしろかったです。マッサージされて気持ちが落ち着くような気がしました。足湯は人の心をおだやかにするということが分かりました。

参加した先生の声

- ・ 「子ども」だから「大人」だからではなく、「自分」ができることはなにか、を子どもたちは考えて行動していました。助け合い、協力し合い、感謝し合っている子どもの姿が多く場面で見られ、確かな成長を感じました。
- ・ 水や使える道具に制限をつけることで避難所生活により近い体験になり、自分たちで考えながら行動することができた。様々な大人から感動をもらうことでよいふりかえりを行うことができた。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学級数10、全校児童179名の当校は、“笑顔あふれる七葉”をスローガンに充実した教育活動を実践している。学区は櫛形山脈の西端に広がる水田地帯にあり、児童は広範囲から通学している。国道7号線を挟んで住宅団地が造成されて、水田地域と二分された地域特色がある。加治、菅谷の両コミュニティのそれぞれに自主防災組織があり、学区一体となった防災訓練の実施や減災意識の高揚を図ることが難しい。</p> <p>過去に河川決壊による水害を経験している地域である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における避難訓練の確実な実施 ・登下校時の安全確保 ・学校と家庭や地域と連携した“自分の命は自分で守る”意識の高揚 ・地域と連携した防災教育の実施
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害を身近なものとして捉え、“自分の命は自分で守る”という意識をもち、主体的に身を守る行動ができる児童 ・自助や共助の大切さを知り、何が必要なのか考え、適切な備えができる児童 ・家族や地域の一員であることを自覚し、自分ができることを考え実行することができる児童 <p><4年生防災キャンプ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の被害実態を捉えるとともに、災害から生き抜く力を育む活動ができる ・避難所体験をとおして、助け合い協力し合う態度を養うことができる
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p><一泊二日 4年生防災キャンプ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県及び身近な地域の災害について学ぶ学習 ・親子行事「災害時に活用できるLEDミニランタン作り」・炊き出し体験 ・段ボールハウス作り・避難所生活について学ぶ（持ち物を分け合う課題解決型学習、簡易担架作り体験）・足湯体験・避難所生活の過ごし方・振り返り
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・一泊二日4年生防災キャンプの実施 ・年3回の避難訓練（地域の方の参観） ・年1回の避難訓練後の引き渡し訓練（家庭との連携）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置付けた防災教育プログラムを活用した授業の実施 ・4年生防災キャンプの確実な実施 ・4年生PTA親子行事とのタイアップ ・家庭や地域連携のための避難訓練参観実施及び参加協力への働き掛け

新発田市立七葉小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災教育プログラムを活用した授業

(原子力災害)

防災教育プログラムを活用した授業 (雪災害) + 避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業 (土砂災害)

防災教育プログラムを活用した授業 (洪水災害) + 避難訓練

防災
キャンプ

防災教育プログラムを活用した授業 + 引き渡し訓練

防災教育プログラムを活用した授業 (津波災害)

防災教育プログラムを活用した授業 (地震災害) + 避難訓練

新発田市立佐々木小学校の事例

日時 平成 29 年 6 月 13 日 (火) 9:00 ~ 14:35 (日帰り) **場所** 滝谷森林公園、あかたにの家

学年 第 4 学年 22 人 **引率** 教員 3 人 **外部講師** 5 人、地域の方 1 人

- ねらい**
- (1) 身近な川や自然のよさや日々受けている恵みを感じ取ると共に、時に発生する災害について理解し、災害に備える心構えや災害の際に必要な行動の仕方について学ぶ。
 - (2) 佐々木地域の生活や歴史と深く関わってきた古太田川や上流につながる加治川の洪水災害の歴史を知り、佐々木地域で生活する立場として、自然と共に生きていくために大切な心構えを学ぶ。
 - (3) 防災の視点からつながる体験活動を通して、災害発生時や避難時において、協力することや他人を思いやること、工夫することの必要性に気づき、具体的な方法を学び、自然災害に備える意識を高める。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	佐々木小学校出発		
9:40	滝谷森林公園到着 【活動1 加治川周辺の野草を知る・川の流れを知る体験】 ①地域の方から食べられる野草の解説 ・実際に見て、触れ、自然の恵みを知る。佐々木小学校のあたりではどんな野草があるのか、また野草が育つ環境から地域について知る。 ②川の流れの速さ、深さに関する実験指導 (参考P. 95) 1. 川でおぼれた人を助ける方法の 1 つとしてロープをつけたペットボトルを投げする方法があることを伝え、班に分かれペットボトルにロープを結ぶ。(ほどけないよう・遠くに飛ばよう工夫を考える) 2. 実際に投げ、遠くまで投げられた班から工夫を発表してもらう。 3. ほどけない結び方について見本を提示する。 4. 加治川にペットボトルを投げて、川の流れの違いを観察。 5. 川の流れの違いを観察し気づいたことを発表。 ★川の流れをもとにした実験では、川の種類により深さや流れが大きく違うことが実感できるようにする。 ★天候により水量が違うことに気付かせる。 ★いざという時に、身近なもので身を守るものを作る (工夫する) 視点とつなげる。	ペットボトル・ロープ・はさみ×班数	外部講師
10:50	滝谷森林公園出発		
11:05	あかたにの家到着		
11:15	【活動2 ゲストティーチャーによる加治川洪水の歴史や羽越水害 50 年に関連した話を聴く】 (会場：研修室 2) (語り部：石澤清一氏) ★佐々木地域においても洪水被害の歴史があったことと関連させる。	羽越水害時の写真資料	語り部
11:50	(総合の学習で事前に学習しておく)		
11:50	午前の活動振り返り		
12:05	(会場：研修室 2)	振り返りワークシート×人数	外部講師
12:10	【活動3 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
12:55	班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置		
12:55	【活動4 避難所での生活を乗り切る準備をしよう】 (会場：体育館) (参考P. 106) ①写真資料から避難所の様子を伝え、避難所での生活で「困ること」、「必要なこと」を問いかける。 ②困ることを解決するためにできることを班ごとに話し合い、紙にまとめる。 ③全体で発表を聞き合い、共有する。 ④中越地震のときの避難所での体験談を聞く。	A3 用紙 2 枚・プロッキー×班数 防災グッズチェックリスト×人数	外部講師

14:00	⑤防災グッズチェックリストを使ってシミュレーションを行ってみる。 ・避難の際、リストの中から3つだけ持ち出せるとしたら、自分（自分の家族）は何を選ぶか。 ⑥シェアリング・発表		
14:10 14:30	【活動5 防災グッズ（新聞紙スリッパ）作り】 （会場：体育館）（参考P. 101） ★新聞紙スリッパは、衛生面や安全面、防寒にも役立つことを伝える。身近なものを工夫することの大切さを伝える。	スリッパ 新聞紙 2 枚×人数	外部講師
14:30 14:35	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



地域の方から食べられる野草の解説



ペットボトルを使った川の流れ・深さに関する実験



羽越災害についてのお話（語り部）



非常食体験



新聞紙スリッパ作り

参加した児童の感想・気付き

- ・身近にあるいろいろなものが、ひなん所で役立つことがわかりました。新聞紙スリッパはかんたんにできるし、足があたたかく安全で、とてもいいと思いました。家に帰って、家族のみんなの分を作ってみました。
- ・ペットボトルで人を助けられることにおどろきました。石や水を入れるととても遠くまでとばせました。おぼれそうな人がいたら、助けたいと思います。

参加した先生の声

- ・たくさんのスタッフの皆さんにご協力いただき、専門的な内容を学ぶことができました。1日かけてじっくり防災について考え感じる事ができました。
- ・防災キャンプで学んだことや習ったことを、早速お家の方に聞かせたり、実践したりする子どもたちの様子がありました。防災に対する意識が高まったことを実感しています。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>当校は現在7学級に123名の児童が在籍している。学区は新発田市の西端に位置し、田園が広がる地域である。豊栄地区、聖籠町に近接し、旧7号線周辺には北興地区や西部工業団地など工場が多数ある。4Km以上の通学地域もありスクールバスを運行している。地域にはコミュニティーセンターを中心とし、共同体意識が高く、学校教育に対しても理解があり、協力的である。地区には太田川があり過去に水害を経験している。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の安全確保 ・学校における確実な避難訓練の実施 ・地域と連携した防災教育、安全教育の実施 ・自分の命は自分で守る意識の醸成
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害や防災についての正しい知識や技能を身につける子 ・「自分の命は自分で守る」という自覚を持ち、主体的に行動ができる子 ・日常生活の中に潜む様々な危険を予測し、危険を回避し安全な行動をとれる子 ・家族、地域の一員として、自分ができることを考え実行できる子
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p><4年生防災キャンプ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・川体験活動：川の流れの観察、救急道具を作る体験 ・地域の方からの体験談：佐々木地区が洪水の被害に遭い、避難した時の話 ・非常食体験 ・避難所生活について学ぶ：避難所に持って行く物を選ぶとしたらをテーマにした話し合いと新聞紙スリッパ作り、活動の振り返り
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・4年生防災キャンプの実施 ・年3回の避難訓練の実施（1回は佐々木コミュニティーセンターへの避難） ・地域と連携した防犯パトロールの実施、各地域の危険箇所の確認
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置づけた防災教育プログラムを活用した授業を実施する。 ・4年生防災キャンプの実施に向け、保護者の理解と協力を得る。 ・学校評議員会や育成会、区長会で防災教育について協力依頼する。

新発田市立七葉小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

避難訓練 火災

防災教育プログラム 洪水災害編・土砂災害編

防 災
キ
ャ
ン
プ

防災教育プログラム 地震災害編・津波災害編

避難訓練 地震・津波

防災教育プログラム 震災書編・原子力災害編

避難訓練 火災

新発田市立住吉小学校の事例

日時 平成 29 年 6 月 29 日 (木) 9:00 ~ 15:40 (日帰り) **場所** あかたにの家

学年 第 4 学年 95 人 **引率** 教員 6 人 **外部講師** 6 人

- ねらい**
- (1) 過去の洪水や地震等の災害を知り、自然から日々受けている恵みと時に発生する災害について理解し、新発田地域で生活をする人として、自然と一緒に生きていくために大切な心構えを学ぶ。
 - (2) 防災の視点による体験活動を通して、子どもたちが楽しみながらも工夫すること・協力すること・他人を思いやることの大切さを学び、自然災害に備える意識を高める。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	住吉小学校出発		
9:30 9:45 11:55	あかたにの家到着 開校式 【活動 1 防災レクリエーション】 (会場：体育館) (参考 P. 99 ~ 102) ①災害時の写真資料等を使い、学習の動機付けを行う。 午前中の活動のルールと体験内容・体験場所を説明する。 ②班で 4 つのコーナーを体験する。 ・水消火器体験 ・毛布担架作りと搬送体験 ・防災クイズ (自然・川の恵みと災いについて考える) ・身近なもので応急手当 ③レクリエーションの振り返りを行う。感想を発表させる。 ★自分の命を自分で守ることを確認し、自分の命を守った後は行動として避難所に避難することを押さえる。午後からは避難所での課題や自分たちにできることを考え、体験することを伝える。	水消火器 水消火器×6本+予備・ カラーコーン×3個 (消火をする火元として使う) 毛布担架 毛布×6枚、 担架用の棒×12本 応急処置 ビニール袋・はさみ・ タオル×人数	外部講師
12:00 13:30	【活動 2 非常食体験】 (会場：体育館) 昼食準備、昼食、休憩 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ スプーン・お盆・ゴミ袋	学校
13:30 14:15	【活動 3 家庭での備えを考える】 (会場：体育館) (参考 P. 107) ①午前中のまとめを確認し、自分の命を守った後は避難所に避難することを確認する。 災害が発生すると、電気・ガス・水道が使えなくなることを知る。 ②災害時の避難に必要な防災グッズを班で考えさせる。 1) 個人で必要だと思うものを 5 つ選び、選んだものを班内で発表し合う。 2) 班で必要だと思うものを 5 つ選んで、A3 用紙に書かせる。 3) いくつかの班から「選んだもの」と「選んだ理由」を発表させる。 ③防災グッズチェックリストのものは全て必要。その中で必要なものを選ぶと、個人・班でも違うように、家庭の備えは、家族構成や特徴によっても違うことを伝える。 ④自分の家族にあった防災グッズを準備するために、今日自宅に帰ったら家族と話し合うことを伝え、まとめる。	防災グッズチェックリスト× 人数 A3 用紙・プロッキー×班数	外部講師
14:30 15:30	【活動 4 防災グッズ作り・身近なものを活用した工夫】 (会場：体育館) (参考 P. 101, 103 ~ 105) ①全体で 2 班に分かれ、新聞紙スリッパ・ビニール袋で雨がっぱ作りを交互に体験する。 ②熊本地震の避難所で活躍していた小・中学生の様子を伝える。避難所では「皆で協力すること・自分にできることを一生懸命頑張ること」を押さえる。 ★避難所の課題を知り、自分たちにできることを考え、身近なものを工夫した防災グッズ作りの体験を通じて、普段からの備えや準備の大切さを知る。	スリッパ 新聞紙 2 枚×人数 雨がっぱ ゴミ袋 45ℓ 2 枚・ハサミ・ 油性マジック×人数	外部講師
15:30 15:40	閉校式、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



防災クイズ



身近なもので応急手当



毛布担架作りと搬送体験



保護者の方より非常食準備



防災グッズについて話し合い



選んだ防災グッズ・選んだ理由

参加した児童の感想・気付き

- ・家でできることをやったけど、災害の時のためにいろいろ準備しなければいけないんだなと思いました。いつ災害がおきるかわからないから、防災道具を準備した方がいいと思いました。
- ・気がついたことは、本当に災害がおきたときは、つらいんだなあとと思いました。理由は、食べ物がかたかったり外でねたりするから、つらいなあとと思いました。これから自分は、災害がおきた時のために準備をしておこうと思いました。
- ・防災カレーは量が少ないけど、もし災害がおきたときは、こういうのを食べなきゃ生きていけないと思いました。災害がおきたときに、こんな工夫をして生きているなんて分かりませんでした。もしも災害がおきたら、たんかとか作って、みんなと協力して生きていきたいです。

参加した先生の声

- ・日頃の備えが大切な理由を理解することができたし、自分の家でも防災グッズを整えておきたいという思いをもつことができ、大変有意義でした。
- ・非常食を体験し、被災した時の苦労を少しでも体感することができたのが良かったです。
- ・身近なものを工夫して用いる知恵を知り、楽しみながら学ぶことができました。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学級数24、全校児童538名の当校は、近年宅地開発が盛んに行われ、児童数が増加している。商業地区も近くに開発され、交通量も多くなっている。校区12地区町内会には、それぞれに自主防災組織があり、地域一体となった防災訓練を実施し、減災意識の高揚を図っている。</p> <p>過去に大きな災害は経験していない地域である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における避難訓練の確実な実施 ・登下校時の安全確保 ・学校と家庭や地域と連携した“自分の命は自分で守る”意識の高揚 ・地域と連携した防災教育の実施
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害を身近なものとして捉え、“自分の命は自分で守る”という意識をもち、主体的に身を守る行動ができる児童 ・自助や共助の大切さを知り、何が必要なのか考え、適切な備えができる児童 ・家族や地域の一員であることを自覚し、自分ができることを考え実行することができる児童 <p><4年生防災キャンプ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の被害実態を捉えるとともに、災害から生き抜く力を育む活動ができる ・避難所体験をとおして、助け合い協力し合う態度を養うことができる
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4学年を対象に、新発田市の青少年宿泊施設「あかたにの家」で、1日防災体験学習を行った。NPO法人ふるさと未来創造堂の方を講師に、非常時の備え、非常食の試食、簡単なけがの手当の仕方、毛布で簡易担架作り及び搬送体験について学習した。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4学年を対象に、「あかたにの家」で1日防災体験学習を行う。施設の方や、NPO法人ふるさと未来創造堂の方から協力をいただき、施設の中の防災設備を見学したり、防災食を試食したりする等、非常時に役立つ実践的な活動を行う。 ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・年3回の避難訓練
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の危険箇所や避難場所等について、児童や保護者だけでなく職員間においても共通理解を図る。 ・「あかたにの家」での活動内容について、次の4年生に確実に引き継ぐ。

新発田市立住吉小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災教育プログラムを活用した授業（地震災害）＋ 避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業（津波災害）

防災
キャンプ

防災教育プログラムを活用した授業（洪水災害）＋ 避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業（土砂災害）

防災教育プログラムを活用した授業（雪災害）＋ 避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業

（原子力災害）

新発田市立東豊小学校の事例

日時 平成 29 年 7 月 12 日 (水) 9:00 ~ 14:20 (日帰り) **場所** あかたにの家

学年 第 4 学年 77 人 **引率** 教員 7 人 **外部講師** 4 人

- ねらい**
- (1) 緊急地震速報が鳴ったときの行動や怪我をした時の応急手当の仕方を学び、危険予測・回避能力を育む。
 - (2) グループでお互いに協力し合いながら、課題を克服する活動を通して、友だちと協力すること・他人を思いやること・やりとげることの大切さを学ぶ。
 - (3) 自分の家の非常用持ち出し品を考えることで、防災意識を高める。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	東豊小学校出発		
9:30 9:45 10:45	あかたにの家到着 【活動 1 緊急地震速報が鳴った時の行動を学ぶ・応急処置体験】 (会場：体育館) ゲストティーチャー (消防署員) から学ぶ。 ①写真資料から、地震災害が起こった時の被害について学ぶ。 ②緊急地震速報について知り、鳴った時の対処行動を学ぶ。 ③応急手当 (止血法) を学ぶ。	応急手当 タオル×人数	外部講師
10:50 12:15	【活動 2 災害時に役立つ！ 3 つのミッションをクリアしよう】 (会場：体育館) (参考 P. 99 ~ 102) ①活動 1 に続き、小学生でもできる災害時の工夫を体験することを伝え、活動のルールと体験内容・場所の説明をする。 ②班で体験コーナー 3 つを体験する。 ・毛布担架作りと搬送体験 ・バケツリレー体験 ・新聞紙スリッパ作り ③まとめ 1 ~ 2 人から感想を発表させる。 ★自分の命を自分で守ることを確認し、自分の命を守った後は行動として避難所に避難することを押さえる。午後からは避難所での課題や自分たちにできることを考え、体験することを伝える。 ④振り返り	毛布担架 毛布 × 6 枚・担架用の棒 × 12 本 バケツリレー バケツ × 7 個 スリッパ 新聞紙 2 枚 × 人数 振り返りワークシート × 人数	外部講師
12:25 13:05	【活動 2 非常食体験】 (会場：体育館) 昼食準備、昼食、休憩 13:05 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
13:15 14:00	【活動 3 家庭での備えを考える】 (会場：体育館) (参考 P. 107) ①午前中のまとめを確認し、自分の命を守った後は避難所に避難することを確認する。 災害が発生すると、電気・ガス・水道が使えなくなることを知る。 ②災害時の避難に必要な防災グッズを班で考えさせる。 1) 個人で必要だと思うものを 5 つ選び、選んだものを班内で発表し合う。 2) 班で必要だと思うものを 5 つ選んで、A3 用紙に書かせる。 3) いくつかの班から「選んだもの」と「選んだ理由」を発表させる。 ③防災グッズチェックリストのものは全て必要。その中で必要なものを選ぶと、個人・班でも違うように、家庭の備えは、家族構成や特徴によっても違うことを伝える。 ★家庭の備えについて、家族構成・特徴によっても違うことを押さえ、帰ってから家族と話し合うことを伝える。	防災グッズチェックリスト × 人数 A3 用紙・プロッキー × 班数	外部講師
14:10 14:20	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



災害について消防署の方からお話



応急手当の方法（止血）を学習



新聞紙スリッパ作り



体育館で非常食体験



避難所について学習



非常用持ち出し品を話し合い

参加した児童の感想・気付き

- ・毛布担架や新聞紙スリッパの作り方を学ぶことができてよかった。災害時は活用したい。
- ・非常食がよかった。普段食べている給食のありがたさがよく分かった。
- ・バケツリレーの時に、水のくみ方やバケツの渡し方のコツを教えてもらえて良かった。
- ・防災グッズチェックリストを使って、家族で話し合うことで防災意識が高まった。（保護者のコメントより）

参加した先生の声

- ・あかたにの家でしかできないような体験ができると良かった。説明の時間が長かったので、ミッションを増やすなどして、児童が体験できる時間を多くした方が良い。
- ・非常食体験は、とても良かった。普段の食事のありがたさや非常時の大変さを実感できた。
- ・防災グッズについて話し合った後、家庭にワークシートを持ち帰り、家族と話し合うきっかけにしたことは良かった。ただ、児童が話し合う時間が短かったため、選んだ理由などを話し合うことができず残念だった。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>旧新発田市の東部に位置する学級数20学級・全校児童数499名の学校である。平成29年度に創立30周年を迎える。</p> <p>保護者や地域は協力的で、学校の教育活動や子どもたちの安心安全な環境づくりのために、多くの支援をいただいている。</p> <p>地域で起こりうる可能性の高い災害は、地震、雪害などである。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>当校における避難訓練は、学校にいる時（授業中や休み時間）を想定して行っている。しかし、災害は子ども達が登下校している時や自分の家にいる時など、学校外で起こる可能性も考えられる。地域の自然環境や避難場所、避難方法等について知るとともに、災害時、どこにいても自分の身を自分で守れる子に育てていきたいと考える。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の命を大切にする子 ・災害や防災に関する正しい知識や技能を身に付ける子 ・命を守るために自ら冷静に判断し、落ち着いて行動できる子 ・友達や地域のために進んで行動し、共に助け合う子
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常食としてのアルファ米とレトルトカレー、乾パンを試食する。 ・新潟県防災教育プログラム「地震災害編」をもとに、地震の危険性について考えたり、発生時の身の守り方について考えたりする。 ・災害時に役立つ行動や道具の使い方を学び、体験する。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の地域子ども会において、各地域の危険箇所を確認した後、教師が同行して集団下校を行う。 ・4年生が、青少年宿泊施設「あかたにの家」において、自然体験活動や防災教育を行う。
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の危険箇所や避難場所等について、児童や保護者だけでなく職員間においても共通理解を図る。 ・「あかたにの家」での活動内容について、次の4年生に確実に引き継ぐ。

新発田市立東豊小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年			防災教育 プログラム (地震災害編)									
第3学年							防災教育 プログラム (洪水災害編) (土砂災害編) (原子力災害編)					
第4学年					あかたにの家 ネイチャースクール					防災教育 プログラム (雪災害編)		
第5学年		防災教育 プログラム (地震災害編)										
第6学年												

新発田市立中浦小学校の事例

日時 平成 29 年 7 月 14 日 (金) 9:00 ~ 14:30 (日帰り) **場所** あかたにの家

学年 第 4 学年 21 人 **引率** 教員 3 人 **外部講師** 3 人

- ねらい**
- (1) 川や雨等の自然から日々受けている恵みと、時に発生する災害について理解し、豊浦地域で生活する人として自然と一緒に生きていくために大切な心構えを学ぶ。
 - (2) 防災の視点による体験活動を通して、子どもたちが楽しみながら、工夫すること・協力すること・他人を思いやることの大切さを学ぶ。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	中浦小学校出発		
9:30 9:45	あかたにの家到着 【活動 1 防災レクリエーション】 (会場：体育館) (参考 P. 99 ~ 102) ①過去の自然災害の様子を写真資料から知る。 ②防災クイズラリー 体育館内に掲示してある防災クイズを班で探してクイズに答え、解答用紙に記入。 ③班で体験コーナーを 2 か所体験。 ・水消火器体験 ・新聞紙スリッパ、紙食器作り ④液状化現象体験キット「エッキー」の体験 中越地震時の液状化現象の被害写真から液状化現象について知り、体験する。 ⑤シェイクアウト訓練 地震が起きた時の 3 つの安全行動 (DROP ! COVER ! HOLD ON !) を伝え、緊急地震速報を鳴らし、実際に体験する。 ⑥レクリエーションの振り返り、数人から感想発表。 ★災害が起きたときは、まずは自分の命を自分で守ること、自分の命を守った後は今日の体験のようにみんなで協力して行動することを押さえる。 ★災害時の行動として避難所に避難することを伝え、午後からは避難所での課題や自分たちにできることを考え、体験することを伝える。	クイズラリー 掲示用クイズ、クイズラリー (解答) 用紙 水消火器 水消火器 × 6 本 + 予備・カラーコーン × 3 個 (消火をする火元として使う) スリッパ・紙食器 新聞紙 4 枚 × 人数 エッキー 体験キット・液状化現象写真資料	外部講師
12:00 12:55	【活動 2 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
12:55 13:10	午前の活動振り返り (会場：研修室 2)		外部講師
13:10 14:10	【活動 3 災害時に自分でできることを考える】 (会場：研修室 2) (参考 P. 106) ①午前中を振り返り、自分の命を守れなければ、他の人を助けられないことを確認し、絶対に自分の命は自分で守ることを伝える。 ②地震の揺れがおさまった後の避難所生活の様子を伝え、どんなことに困るか、班で考え、発表する。 ③困りごとを少しでも良くするためにどんなことができるか班で考える。 ④発表・まとめ ★熊本地震の時の避難所の様子を紹介し、小学生でもできることがあることを押さえ、日頃の学校生活での挨拶や掃除、思いやり等が災害時にもつながっていることを伝える。	A3 用紙・プロッキー × 班数	外部講師
14:20 14:30	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



防災クイズラリー



水消火器体験



新聞紙スリッパ作り



液状化現象「エッキー」の体験



シェイクアウト訓練



避難所で自分たちにできることを発表

参加した児童の感想・気付き

- ・大地震のときに小中学生が進んで周りの人にバナナを配っていたという話が心に残った。大人に頼らずに行動するということが大事だということを学んだ。
- ・新聞紙でスリッパを作ってみて、地震が起きたときに自分たちに何ができるかをもっと考えたいと思った。きっといろいろなことができると思った。
- ・大人にはない元気を出すのが子どもたちの役目だと思った。もしも災害に遭ったら頑張りたい。

参加した先生の声

- ・どの活動も仲間と協力しながら取り組むように計画されていた。防災に関する知識を学びながら、協働する力を育むことができた。
- ・学校職員以外の方と関わることで、社会性を育む効果があると感じた。スタッフがたくさん褒めてくださる方ばかりで、楽しく活動し、自己肯定感を高めることができた。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学区は大小15地区からなり、範囲が広い。そのため、中ノ目新田地区の児童は、定期バスを利用して通学している。学区の多くは田畑であり、兼業農家の家庭もある。保護者が勤めに出て、留守宅は祖父母に委ねられている家庭も多い。国道沿いには大伝新道地区の商店街があり、車の通行量が多く歩道も未整備な部分があるため危険な箇所もある。</p> <p>地域で起こりうる可能性の高い災害は水害である。集中豪雨が発生すると、用水路の水が溢れ、道路や近隣の田が冠水することがある。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>当校における避難訓練は、学校にいる時（授業中や休み時間）を想定して行っている。しかし、災害は子どもたちが登下校している時や自分の家にいる時など、学校外で起こる可能性も考えられる。地域の自然環境や避難場所、避難方法等について知るとともに、災害時、どこにいても自分の身は自分で守れる子に育てていきたいと願っている。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害から生き抜く力（命を守るために自ら判断し、安全な行動ができる力）を養う。 2 地域への関心を高め、自然環境や地域特性、地域の防災体制を理解させる。 3 被災地や他地域の災害時に、他者に寄り添い力になろうとする気持ちを育む。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>4学年を対象に、新発田市の青少年宿泊施設「あかたにの家」で、1日防災体験学習を行った。防災レクリエーション（①防災クイズラリー、②新聞紙スリッパ・新聞紙食器づくり、③消火器体験、④シェイクアウト訓練等）、非常食体験、災害時の行動に係るワークショップ等について学習した。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 2 4年生防災キャンプの実施 3 年3回の避難訓練（保育園との合同訓練の実施） 4 年1回の避難訓練後の引き渡し訓練 5 教職員の研修（消火栓訓練）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程に位置付けた防災教育プログラムを活用した授業の実施 2 教育課程に位置づけた「4年生防災キャンプ」の実施 3 家庭や地域、関係機関との連携による避難訓練、引き渡し訓練、職員研修の実施

新発田市立天王小学校の事例

日時 平成 29 年 9 月 1 日 (金) 9:00 ~ 15:10 (日帰り) **場所** あかたにの家、赤谷地域

学年 第 4 学年 14 人 **引率** 教員 2 人、保護者 1 人 **外部講師** 4 人

- ねらい**
- (1) 地域散策を通して、自然から日々受けている恵みと、ときに発生する災害について理解し、自然とともに生きていくために大切な心構えを学ぶ。
 - (2) 防災グッズづくりを通し、楽しみながら工夫すること、協力すること、他人を思いやることの大切さを学び、自然災害に備える意識を高める。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	天王小学校出発		
10:00	あかたにの家到着 【活動 1 赤谷地域の自然散策】(会場：研修室 2・赤谷地域) (参考 P. 97) ①活動の説明、班内の役割、観察時の注意点を伝え、出発する。 ・歩くときは 2 列になること ・カメラは班長が持つ。写真は 1 人 1 枚のみ。 ・「班の地図を持つ子ども」と「A4 用紙にメモをする子ども」を班内で決める。 ・赤谷のいいところの写真を 1 人 1 枚撮る。写真をとった場所は地図に印を付ける。 ・探検バック、水筒を持つ。 ★自然の魅力を感じるとともに、ときには災いに転じることもあることを知る。 ★赤谷地域周辺の自然にふれさせ、自然災害が起こったときに、どのように変化するかを考えさせる。	チェキ (インスタントカメラ) ・赤谷地域の地図 ・ A4 用紙 × 班数 探検バック ・ 水筒 ・ 筆記用具 ・ 帽子 (各自)	外部講師
10:30	～自然散策～		
11:55	②あかたにの家職員の方から、赤谷地域のお話をきく。質問がある場合、インタビューする。		
12:05	③午後の活動について説明する。 ★日々の恵みとときに起こる自然の災いは表裏一体であること、災害に備えることが大切であることを押さえる。		
12:15	【活動 2 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩		学校
13:00	班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー ・ 乾パン ・ ゴミ袋	
13:00	【活動 3 午前中の活動の振り返り】 (会場：研修室 2) ①自分が撮った写真のいいところを、フィルムの下部に書く。 ②撮った写真を地図に貼り付けて、位置情報と写真を結び付ける。 ③見つけたいいところを発表する。		外部講師
13:45	④まちあるきの感想を記入し、発表する。	赤谷地域の地図 ・ セロハンテープ ・ プロッキー × 班数	
13:55	【活動 4 防災グッズ作り・身近なものを活用した工夫】 (会場：体育館) (参考 P. 103~105) ①中越地震等の避難所の様子や課題を伝え、災害についての備えを考える。 新発田市の災害備蓄状況について伝える。 ②班ごとに、段ボールパーテーション作り。 ③熊本地震の避難所で活躍していた小・中学生の様子を伝える。避難所では、「皆で協力すること・自分にできることを一生懸命頑張ること」を押さえる。 ★避難所の課題を知り、自分たちにできることを考える。 ★身近なものを工夫した防災グッズ作りの体験を通じて、普段からの備えや準備の大切さを知る。	パーテーション 段ボール 3 箱 ・ はさみ 2 個 ・ ガムテープ × 班数	外部講師
15:00	終わりの会、記念撮影		
15:10	あかたにの家出発		学校

当日の様子



赤谷地域の自然散策



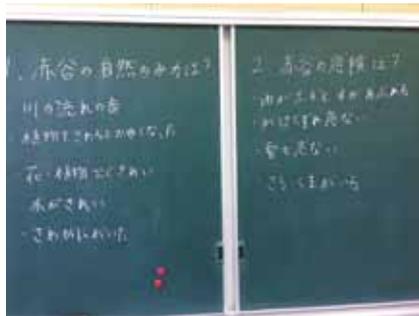
あかたにの家の方から赤谷地域のお話



自然散策をもとにマップ作り



全体発表



赤谷地域の自然の魅力・危険



段ボールパーテーション作り

参加した児童の感想・気づき

- ・ 田んぼのいねがたおれていて、ひぐち先生が「風の通り道」と言っていました。サルが来ないようにするしかけもありました。他にも、森や川がありました。森はきれいで、声がひびきました。川の近くに山があつてきれいでした。でも、がけくずれがあつたり、川があふれたりすることもありました。自然はきれいだけど、きけんもありました。
- ・ カレーはおなかやすかないように、ねちょねちょしていました。乾パンは、食べると口の中の水分がほとんどなくなるほどからからでした。でも、どちらもすごくおいしかったです。全部食べられました。
- ・ 星野さんが、ひなん所の様子を教えてくださいました。「自分の家の近くに川があつたら、その川をつねに見ていて、川の水の量が多かつたら、すぐに家の2階ににげることが大事。」と言っていました。全体を通して思ったことは、災害はいつ起こるか分からないから、つねに災害のことを考えてじゅんびすることが大切ということです。また、これからは、非常食や防災グッズを家に置いておきたいと思いました。そして、自分ができるところを考えたいと思いました。

参加した先生の声

- ・ 防災教室を行ってから、校内区に潜む危険性について目を向けるようになった。
- ・ 講話をしていただいて、避難所の子もたちのいろいろな活動から刺激を受けるとともに、普段当たり前のように生活していることがどんなに幸せなことかを改めて感じた。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>当学区は、新発田市の最南にあり、西に新潟市、南には阿賀野市と境を接し、豊かな自然に恵まれた農村地帯である。また、長年にわたる福島潟の水害との闘い等を通して、地区民が協力し、安定した耕地づくりに励んできた歴史がある。調査によれば、総じて三世代同居の家族構成が約8割と多いが、少子高齢化の波は当学区にも押し寄せており、児童数の漸減が続いている。また、農村地帯であるが、専業農家は極めて少なく、近隣市町村に職を持つ兼業農家が多い。</p> <p>平成7年4月1日に直下型地震があり、体育館が倒壊した。地域住民の熱意と要望により、国の災害認定を受けることができ、翌年には新体育館が竣工した。</p> <p>他に地域で起こりうる可能性の高い災害は、水害である。校区全体の土地が低くなっており、集中豪雨が発生すると、道路や、近隣の田の多くが冠水することがある。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>当校における避難訓練は、学校にいるとき（授業中や休み時間）に起きる災害を想定して行っている。しかし災害はいつ何時おそってくるか分からない。学校で学習した避難の仕方や、防災に関する知識をどこにいても活用し、自分の身を守ることができるようになってほしいと考える。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>自ら危険を予測し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できるようにする。 （判断力・行動力）</p> <p>進んで他の人や地域の安全・安心のために役立つことができるようにする。 （貢献する態度）</p> <p>災害発生メカニズムや地域の防災体制について理解し活用できるようにする。 （知識の取得と活用）</p>
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>4学年を対象に、新発田市の青少年宿泊施設「あかたにの家」で、1日防災体験学習を行った。午前は、ふるさと未来創造堂の方を講師に、自然散策をしながら災害の危険性について講話していただいた。午後は、非常食作りと試食、簡単な防災グッズ作りに取り組んだ。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<p>4学年を対象に、「あかたにの家」で1日防災体験学習を行う。施設の方や、赤十字安全奉仕団の方などから協力をいただき、施設の中の防災設備を見学したり、防災食を作ったりする等、非常時に役立つ実践的な活動を行う。</p>
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<p>1日防災体験学習を年間行事予定に位置づけ、「あかたにの家」の使用申請を行う。また、赤十字安全奉仕団に連絡を取り、協力を仰ぐ。</p>

新発田市立天王小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災教育プログラムを活用した授業（地震編）

防災教育プログラムを活用した授業（洪水編）

避難訓練（火災想定・授業中）

1日防災
体験学習

防災教育プログラムを活用した授業（土砂編）

防災教育プログラムを活用した授業（津波編）

避難訓練（地震・津波想定・休憩時間中）

防災教育プログラムを活用した授業（雪害編）

防災教育プログラムを活用した授業（原子力災害編）

避難訓練（積雪時火災想定・授業中）

新発田市立荒橋小学校の事例

日時 平成 29 年 9 月 20 日 (水) 9:00 ~ 14:20 (日帰り) **場所** あかたにの家

学年 第 1 ~ 6 学年 42 人 **引率** 教員 10 人 **外部講師** 6 人

- ねらい**
- (1) 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
 - (2) 自然災害の発生のメカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。
 - (3) 災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	荒橋小学校出発		
9:10 9:20	あかたにの家到着 【活動 1 緊急地震速報が鳴ったらどうする】 (会場：研修室 2) ①緊急地震速報がどのようなものかを知る。 ②鳴った時、どのような行動をするのがよいかを考える。 ③緊急地震速報を流し、シェイクアウト訓練を行う。 ※活動 2 「3.11 東日本大震災の体験談」につなげる。 ★ 3 つのない場所 (おちてこない・たおれてこない・うごいてこない) で自分の命を守ることを伝える。		外部講師
10:00			
10:10 10:50	【活動 2 3.11 東日本大震災の体験談】 (会場：研修室 2) (語り部：荒井尚美氏) ①講師紹介 ②荒井さんのお話 ③質問・感想 お礼		語り部
11:00 11:40	【活動 3 炊き出し訓練】 (会場：調理実習室) ファミリー班での豚汁作りを行う。 ①食材を分配 ②鍋に水を入れて火にかける ③材料を洗って切る ④調味料+味噌を入れる ⑤使った道具・ゴミを片付ける ★作り方は 6 年生が中心になって作るが、担当職員が適宜指導。	主食はおにぎりを持参 食材 (学校)・鍋・ゴミ袋	学校
11:40 12:00 13:10	昼食 (会場：食堂) 昼食の片付け、休憩 ・鍋・お椀・箸を洗う。 ・片付けが終わった班から、移動。		学校
13:10 13:50	【活動 4 防災訓練～新発田広域消防署～】 (会場：研修室 2) (講師：新発田広域消防署) ①講師紹介、挨拶 ②災害時に気を付けること～消防署の方のお話～ ③実技訓練 ・簡単な応急手当 ・搬送体験 ④質問・感想・お礼	応急手当 タオル 毛布担架 毛布×6枚・担架用の棒×12本	外部講師
13:50 14:00	【活動 5 シェアリングタイム】 (会場：研修室 2) 班ごとに振り返りシートを記入し、全体でシェア。	振り返りシート×人数	学校
14:00 14:20	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



シェイクアウト訓練



東日本大震災の体験談（語り部）



炊き出し訓練



消防署の方からお話



毛布担架搬送体験



シェアリングタイム

参加した児童の感想・気づき

- ・骨折した時、近くにある物で手当ができることがわかった。（1年）
- ・マグニチュード6.8や7.5で、あんなに大きな災害になることを初めて知った。P波やS波について、もっと詳しく知りたいと思った。（4年）
- ・災害が起きた時にやること、備えておくことがたくさんあることがわかった。地震が起きたら、今回、学んだことをいかしていきたい。（6年）

参加した先生の声

- ・元消防士の方の地震現場の写真を掲示しながらの話は、こういう状況になるから、こうやって身を守らなければならないという内容で、説得力があった。実際に東日本大震災で被災した荒井さんの手作りの紙芝居を提示しながらの話は、心を打った。津波から逃げる途中で、一緒に逃げたはずのおじいさんとおばあさんが波にのまれ、姿が見えなくなってしまったこと、津波にのまれながらもおじいさんとおばあさん二人そろって九死に一生を得た話は、低学年の子どもたちの心にも響いたことだろう。今回の防災キャンプでは、本物の実話に基づく話を聞くことができ、防災への関心や意識を高めることができたと思う。
- ・午後の川東分遣所の方の実技は、身近な物を使っての応急手当や搬送の仕方を学べて、発見や驚きがあったようだ。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>所在地は新発田駅に近い農村地域にあり、少子高齢化が進んでいる。学校への協力意識が高く、学区内全戸がPTA 準会員としてPTA 会費を納入し、学校の教育活動を支えている。学校の体育館は第一次避難所に指定されているが、体育館を使用した地域住民の防災訓練は、実施されていない。過去の水害時には、大きな被害を免れているが、学校の校舎を始め、古い家屋が多くある地域である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の整備を含む登下校時の安全確保（特に降雪期）が重要である。 ・学校における災害時の対応教育や訓練が中心であるが、地域や家庭での実践力に結びつけることの必要性を感じている。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・置かれた環境での危険予測能力と各種災害時の行動力の育成。 ・災害時に地域の一員として役立とうとする意識の醸成。 ・災害発生メカニズムの理解。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>全校児童を対象とした「あかたにの家」防災キャンプ。（日帰り1日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災経験者の講話 ・炊き出し体験 ・災害時の行動訓練 ・応急処置体験
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童で行う「あかたにの家」防災キャンプを中核に据えた防災教育 <p>小規模校であるという特徴を生かし、異年齢集団合同で防災に関する学習や体験を行うことにより、災害時における他の人々や地域のために役立とうとする意識を醸成する。</p> <p>また、低学年のうちから繰り返し防災キャンプを経験することにより、各種災害時の行動力の育成を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練 ・年1回の引き渡し訓練
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラムを教育課程へ確実に位置づける。 ・全校参加の「あかたにの家」防災キャンプを実施する。 ・自然体験学習とPTA親子行事とタイアップし、必要経費を確保する。

新発田市立荒橋小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災教育プログラムを活用した授業（地震災害）＋ 避難訓練（地震）

防災教育プログラムを活用した授業（土砂・洪水災害）

あかたにの家防災キャンプ
 防災教育プログラムを活用した授業（津波・原子力災害）

防災教育プログラムを活用した授業＋引き渡し訓練

避難訓練（火災）

防災教育プログラムを活用した授業（雷災害）

避難訓練（不審者）

新発田市立本田小学校の事例

日時 平成 29 年 6 月 22 日 (木) 9:00 ~ 14:00 (日帰り) **場所** あかたにの家、赤谷地域

学年 第 4 学年 11 人 **引率** 教員 4 人 **外部講師** 3 人

ねらい (1) 川遊びや流水体験をとおして、自然の恵みと災いについて考える。 ※川体験から自然散策へ変更
(2) 避難所の様子を知り、身近なもので防災グッズを作る活動をとおして、工夫することや協力することの大切さを学ぶ。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	本田小学校出発		
9:50	あかたにの家到着 オリエンテーション (今日の活動の流れ)		外部講師
10:00	【活動 1 赤谷地域の自然散策】 (会場: 体育館・赤谷地域) (参考 P. 97) ①自然の恵みと災いについて知る。	自然散策 チェキ (インスタントカメラ) × 2 班で 1 台 赤谷地域の地図・A4 用紙 × 班数 探検バック・水筒・筆記用具・帽子 (各自) 赤谷地域の地図・セロハンテープ・プロッキー・サインペン × 班数	
10:20	②活動の説明、班内の役割、観察時の注意点を伝え、出発する。 ・赤谷のいいところの写真を 1 人 1 枚撮る。写真をとった場所は地図に印を付ける。 ・散策する際は、班ごとに 2 列で歩く。 ★自然散策をするときに、自分の地域との違いに着目させ、自分の地域にない植物や風景を探すことを押さえる。 ～自然散策～		
11:20	③あかたにの家職員の方から地域のお話を聞く。 ④自分が撮った写真のいいところを、フィルムの下部に書き、地図に貼り付けて、位置情報と写真を結び付ける。 ⑤見つけたいところを各班から発表させる。 ★豊かな自然とともに生活するという事は、自然に近づいて生活をしているということ。自然災害に合う可能性も高いことを伝え、午後からは防災について、学習することを伝える。		
12:00			
12:10	【活動 2 非常食体験】 (会場: 食堂) 昼食準備、昼食、休憩		救給カレー・乾パン・ゴミ袋
13:00	班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置		
13:00	【活動 3 防災グッズ作り】 (会場: 体育館) (参考 P. 101、103 ~ 105) ①過去の災害の被害や避難所での様子について写真資料を見せる。 ★以下のポイントを押さえる。 ・水に浸かってからの避難は危険 ・ 早めの避難が大切なこと ・洪水災害は予想ができること ・ 情報収集が大切なこと ②身近なものを工夫した防災グッズを 2 つ体験する。 ・新聞紙スリッパ ・ ビニール袋で雨がっぱ ③ものがないときには身近なものを工夫する大切さを伝えて、身近なもので防災グッズを作ることを伝える。 ★新聞紙スリッパは、衛生面や防寒にも役立つことを伝える。身近なものを工夫することの大切さを伝える。 ④整列し、振り返りワークシートを記入させ、発表させる。	スリッパ 新聞紙 2 枚 × 人数 雨がっぱ ゴミ袋 45 ℓ 2 枚・ハサミ・油性マジック × 人数	外部講師
13:50			
13:50	終わりの会、記念撮影		学校
14:00	あかたにの家出発		

当日の様子



赤谷地域の自然散策



自然散策で見つけた野草



赤谷のいいところマップ作成



自然災害や避難所について学習



新聞紙スリッパ作り



ビニール袋で雨がっぱ作り

参加した児童の感想・気付き

- ・新聞紙やビニール袋で簡単にスリッパや雨がっぱを作ることができて驚いた。作り方を覚えたので家族の分を作ってあげたい。
- ・班ごとに自然散策をして、きれいな川やおもしろい草花を見つけるのが楽しかったです。

参加した先生の声

- ・身近なもので、子ども達でも防災グッズを簡単に作れることが分かりました。いざという時に役立たせたいという気持ちを子ども達もつことができました。
- ・非常食を食べる体験をして、翌日の給食では温かい食事のありがたさを感じる子が多くいました。当たり前前に感じていた日常に感謝の気持ちをもつことができる体験でした。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>新発田市の南端に位置し、学区に荒川と本田川が流れている。また、本田山には梅林園や水芭蕉群生地等があり、自然に囲まれた環境豊かな地域である。全校児童数は89名（8学級）であり、教育目標「自らきたえる」を目指し、充実した教育活動を行っている。</p> <p>地域で起こりうる可能性の高い災害は、地震、水害である。過去本田川が溢れたことがあり、河川改修が行われた。豪雨による冠水が心配される。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>本田小学校では、5年前から「命の重さを考える日」を設定し、子どもに「いのち」の大切さについて学習してきている。自他の命を大切にすることを踏まえ、あらゆる場面で自ら考え、命を守る行動や困っている人に進んで力を貸すことができる子どもに育てていきたい。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<p>自ら危険を予測し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できる（判断力・行動力）。</p> <p>進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができる（貢献する態度）。</p> <p>災害発生メカニズムや地域の防災体制について理解し活用できる（知識の取得と活用）。</p>
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p><4年生防災キャンプ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県及び身近な地域の災害について学ぶ学習 ・非常食としてのアルファ化米とレトルトカレー、乾パンの試食 ・避難所生活について学ぶ（持ち物を分け合う課題解決型学習、新聞紙スリッパや雨合羽作り）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・4年生防災キャンプの実施 ・年3回の避難訓練（内1回は地域の方と一緒に避難） ・年1回の避難訓練後の引き渡し訓練（家庭との連携）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置付けた防災教育プログラムの確実な実施 ・4年生防災キャンプの確実な実施と4年生PTA親子行事とのタイアップ ・地域に避難訓練参加協力への働き掛けと事後の振り返る会の実施 ・救命救急法講習会への6学年児童・保護者参加

新発田市立本田小学校 「ふるさと新潟防災学習」 年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災教育プログラムを活用した授業（地震・津波災害）＋避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業＋引き渡し訓練

防災
キャンプ

防災教育プログラムを活用した授業（洪水災害）

防災教育プログラムを活用した授業（土砂災害）

防災教育プログラムを活用した授業＋避難訓練

防災教育プログラムを活用した授業（雪災害）

新発田市立紫雲寺小学校の事例

日時	平成 29 年 7 月 11 日 (火) 9:00 ~ 14:40 (日帰り)	場所	あかたにの家
学年	第 4 学年 24 人	引率	教員 2 人、保護者ボランティア 2 人
ねらい	(1) 過去の洪水や地震等の災害を知り、日々自然から受けている恵みと、時に発生する災害について理解し、紫雲寺地域で生活をする人として、自然と共に生きていくために大切な心構えを学ぶ。 (2) 防災の視点による体験活動を通して、子どもたちが工夫すること・協力すること・他人を思いやることの大切さを学び、自然災害に備える意識を高める。		

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	紫雲寺小学校出発		
9:45 10:00	あかたにの家到着 朝の集い 【活動 1 防災レクリエーション】 (会場：体育館) (参考 P. 99 ~ 102) ①災害時の写真資料等を使い学習の動機付けを行う。 午前中の活動のルールと体験内容・体験場所を説明する。 ②班で 4 つのコーナーを体験する。 ・水消火器体験 ・新聞紙スリッパ作り ・防災クイズ (自然・川の恵みと災いについて考える) ・身近なもので応急手当 ③レクリエーションの振り返りを行う。感想を発表させる。 ★自分の命を自分で守ることを確認し、自分の命を守った後は行動として避難所に避難することを押さえる。午後からは避難所での課題や自分たちにできることを考え、体験することを伝える。	水消火器 水消火器×6本+予備・カラーコーン×3個 (消火をする火元として使う) スリッパ 新聞紙 2 枚×人数 応急処置 ビニール袋・はさみ・タオル×人数	外部講師
12:00 13:00	【活動 2 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
13:00 13:30	【活動 3 振り返り・避難所の課題を知る】 (会場：研修室 1) (参考 P. 106) ①午前中のまとめを確認し、自分の命を守った後は避難所に避難することを確認する。 ②過去の避難所写真等を見せ、「避難所は赤ちゃんからお年寄りまでみんなで生活をする場所」であることを押さえる。 ③災害時に避難所に避難するときには電気・ガス・水道が使えなくなることを伝える。電気が使えないとどのようなことに困るか問いかける。 ④日頃からの備えの大切さを押さえる。身近なものの工夫から役立つ防災グッズが作れることを伝えて、活動 4 の動機付けを行う。		外部講師
13:30 14:30	【活動 4 防災グッズ作り・身近なものを活用した工夫】 (会場：研修室 1) (参考 P. 105) ①班ごとに LED ランタンの材料等を配る。 ★時間の関係上、工作用紙に折るための切り込みを入れる作業は事前に行う。 ②作り方の説明。LED ランタンに電池を入れる。 ③ランタンの切り抜く場所のデザインを考え、鉛筆で下書きする。 ★デザインはカッターを使って切り抜くことを考慮し、切り抜きやすい形を描く。 ④カッターで切り抜く。 ⑤テープでカラーセロハンを貼る。両面テープでランタンの重なる部分を貼り合わせる。	作り方の用紙・工作マット・はさみ・カッター・じょうぎ・LED ライト・電池・工作用紙・カラーセロハン×人数 ガムテープ・セロテープ・両面テープ・ブロック×班数	外部講師
14:30 14:40	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



防災クイズ



身近なもので応急手当



新聞紙スリッパ作り



避難所について学習



LED ランタン作り



完成した LED ランタン

参加した児童の感想・気付き

- ・地震などの災害が起きた時、防災クイズで学んだことを生かして命を守りたいです。
- ・身近にある物でも、災害時に役立ついろいろな物が作れることが分かりました。新聞紙スリッパはとても簡単にできるし、避難所でこのスリッパを使ったらいいと思いました。家族の分も作ってあげたいと思いました。
- ・LEDランタンを作るのは大変だったけれど、避難所でこのランタンを使って避難している人に少しでも元気になってもらえたらいいと思いました。
- ・防災キャンプを生かして、普段から災害に役立つものを備えていきたいと思いました。
- ・災害は大変だと思いました。避難所には赤ちゃんからお年寄りまでいるので、避難所ではみんなのことを考えて行動しなければならないと分かりました。子どもでもできる事があるので、防災キャンプで学んだことを生かして、みんなを助けたいです。
- ・防災キャンプでは、新聞紙スリッパや防災クイズ、身近なものでできる応急手当などを学習しました。学習をしておく、本当に津波や地震が来た時に役立つので、こういう学習は大切なんだと思いました。

参加した先生の声

- ・今年度初めて実施した防災キャンプでしたが、防災クイズ、水消火器体験、応急手当、防災グッズ作りなど、様々な体験を通して、児童は防災について考え、日頃から自然災害に対する備えをしておくことの大切さに気付くことができました。
- ・災害の怖さだけでなく、自然の恵みや川の恵みについても教えていただき、自分たちの住む地域の豊かな自然のすばらしさ、自然とともに生きていくことの大切さについても気付くことができました。
- ・ふるさと未来創造堂の皆さん、あかたにの家の皆さんから、様々な準備や専門的な指導をしていただいたおかげで、児童の理解も深まりました。学校職員だけでは、今回体験したような様々な活動をさせることは難しかったと思います。ありがとうございました。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>新潟市から東北へ25kmのところに位置し、総面積26.58km²のほぼ平坦な地域からなる。北西に日本海（藤塚浜海水浴場）を臨み、南西は聖籠町に、東南は加治川地区に、東北は落堀川を隔てて胎内市に隣接する。1735年に紫雲寺潟の干拓によって開発が進められた地域である。全児童数は160名（7学級）であり、年々減少傾向にある。冬季、一部地区児童はタクシー通学をしている。</p> <p>地区内には、自治会組織やれんぎょうパトロール隊が組織され、登校時の危険箇所の安全確保や集団下校時の補助等の協力を得ている。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の安全確保 ・避難訓練の確実な実施による自立した避難、集団行動の定着 ・中学校区の保小中学校間や地域（自治会、れんぎょうパトロール隊等）、関係機関（消防署、警察署、地区公民館等）と連携した防災教育や訓練による安全確保 ・学校と地域と地域が連携して、「自分の命は自分で守る」意識を高揚させる取組
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の生命を尊重する子 ・命を守るために、自ら考え、正しく判断し、安全な行動が取れる子 ・みんなのために、進んで行動し、共に助け合う子 ・「自分の命は自分で守る（命てんでんこ）」意識の高揚
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p><一泊二日 4年生防災キャンプ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災レクリエーション（新潟県及び身近な地域の災害について学ぶ学習） 「水消火器」「毛布担架」「応急処置」体験 ・災害時救急体験「非常食摂取（救給カレー、乾パン）」 ・防災グッズ作り「身近なものを活用したLEDミニランタン作り」 ・避難所生活の過ごし方・振り返り
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練の実施（近隣の保育園や中学校と合同で協力体制での訓練、関係機関からの指導を受けての訓練） ・「あかたにの家」を活用した、4年生の防災教室の実施 ・「新潟県少年自然の家」を活用した、5年生の自然教室の実施 ・隔年の避難訓練後の引き渡し訓練の実施（家庭との連携） ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<p>年間行事予定（学校安全計画・防災学習年間活動計画等）に位置づけた防災教育プログラムを活用した授業、4年生の防災教室、5年生の自然教室、家庭参加の引き渡し訓練を確実に実施する。また、自治会等の地域との連携を強化する。</p>

新発田市立米子小学校の事例

日時 平成 29 年 7 月 3 日 (月) 9:00 ~ 14:00 (日帰り) **場所** あかたにの家

学年 第 4 学年 17 人 **引率** 教員 3 人 **外部講師** 5 人

ねらい (1) 災害について学び、災害がおきたときの心構えや対応の仕方を学ぶ。
(2) 避難所体験や非常食体験をとおして、災害に備える意識を高める。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	米子小学校出発		
9:50 10:00	あかたにの家到着 朝の集い 【活動 1 災害について学ぼう】 ～想定される災害とそのリスクに気付く～ (会場：研修室 2) ①災害写真を見せ、自然災害について知る。 ★川のそばにある米子地区の地震、津波等への防災の心得等を学習する。 ②ワークシート記入。 ・米子地区で考えたほうがよい災害は何か。 ・その災害が起きると誰が、どんなことに困るか。 ③自分たちにできることを考える。 ・その災害の被害を少なくするために備えておいたほうがよいことは何か。 ・その災害の被害を少なくするために自分たちにできることは何か。	ワークシート×人数	外部講師
10:50	④各班からの発表。		
11:00	【活動 2 サバイバルクッキング】 (会場：食堂) (参考 P. 111 ~ 112) ・ポリ袋でご飯を炊く ・ちょっと豪華なポテトスナックサラダ ・野菜スープ	食材 (学校)・アイラップ・鍋・コンロ・ゴミ袋 紙食器 新聞紙 2 枚×人数 (救給カレー、乾パンはおみやげ)	外部講師
12:30	・新聞紙で紙食器を作る		
12:30 12:50	休憩		
12:50	【活動 3 避難所で使える道具を作ろう】 (会場：和室) (参考 P. 105) ①避難所について説明し、避難所の課題について知る。自分たちにできる工夫の 1 つとして LED ランタンを作ることを伝える。 ②作り方の説明。LED ランタンに電池を入れる。 ③ランタンの切り抜く場所のデザインを考え、鉛筆で下書きする。 ★デザインはカッターを使って切り抜くことを考慮し、切り抜きやすい形を描く。 ④カッターで切り抜く。 ⑤テープでカラーセロハンを貼る。両面テープでランタンの重なる部分を貼り合わせる。	作り方の用紙・工作マット・はさみ・カッター・じょうぎ・LED ライト・電池・工作用紙・カラーセロハン×人数 ガムテープ・セロテープ・両面テープ・プロッキー×班数	外部講師
13:50			
13:50 14:00	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

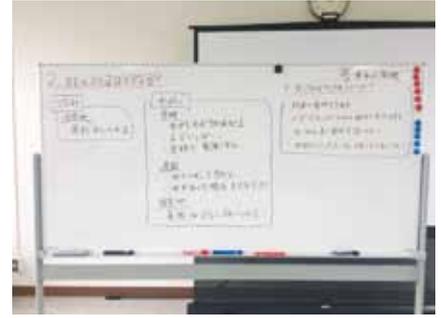
当日の様子



写真資料から自然災害を学習



自分たちにできることを話し合い



発表内容



サバイバルクッキング体験



新聞紙で作った紙食器で昼食



LED ランタン作り

参加した児童の感想・気付き

- ・自然災害は、いつ起こるか分からないので、地震や洪水などが起こる前に「ハザードマップ」で避難する場所を確かめておくことが大切だということが分かりました。
- ・サバイバルクッキングは、ポリ袋を使ってごはんがたけるのがすごいと思いました。家でもやってみて簡単に作ることができました。
- ・ミニランタンは、最初は難しいと思ったけど、あかたにの家の方に教えてもらい、完成してうれしかったです。

参加した先生の声

- ・身近にあるいろいろな物（ポリ袋、シーチキン、ポテトチップス等）を組み合わせて、簡単にしかも短時間に料理が作れることを教えてもらい役に立ちました。
- ・様々な活動時に職員の方が、きめ細かく児童に声をかけてくださり、スムーズに活動ができてありがたかったです。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>学級数7学級、全校児童数92名の当校は、紫雲寺地区の西側に位置し、東西に流れる加治川が学区の中央を流れており、周囲を畑に囲まれた自然豊かな地域の中にある。</p> <p>近くを加治川が流れていることもあり、洪水や地震発生時の津波等、防災教育に力を入れていかなければならない地域である。</p> <p>今年の秋に米子小学校区自治会連合会が中心となって地域の「自主防災訓練」を実施し、防災意識の高揚に努めている。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学校にいるときに起きる災害に対しての避難訓練を確実にを行い、児童の生命を守る。 ・登下校時の児童の安全を確保する。 ・防災教育を実施し、“自分の命は自分で守る”という意識の高揚とその方法を学ぶ。
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らのかけがえのない命を自分で守ることのできる子ども ○ 自然災害等、困難な状況に出会ったとき、自ら判断し、主体的に行動できる子ども ○ 自他の命や人権を尊重できる子ども ○ 家庭や地域の一員としての自覚をもち社会に対し積極的に関わろうとする子ども
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>◎あかたにの家を活用した1日防災キャンプ（4年生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災について学ぶ〔想定される災害とそのリスクに気付く〕 （川のそばにある米子地区の想定できる災害について学び、自分たちでできることを考える） ・1食分の非常食体験〔サバイバルクッキング体験〕 （ポリ袋で炊くご飯、ポテトチップスサラダ、野菜スープ、新聞紙食器） ・避難所で役立つものを作る（LEDミニランタン）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・4年生の防災キャンプの実施 ・火災、地震（津波）、Jアラート等に対応する避難訓練の実施 ・災害時における引き渡し訓練の実施（家庭との連携）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置付けた防災教育プログラムを活用した授業の確実な実施と振り返り ・4年生防災キャンプ（PTA親子行事として）の実施と振り返り

新発田市立米子小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災
キャンプ

新発田市立藤塚小学校の事例

日時 平成 29 年 8 月 1 日 (火) 9:00 ~ 14:10 (日帰り) **場所** 滝谷森林公園、あかたにの家

学年 第 4 学年 24 人 **引率** 教員 11 人、保護者ボランティア 5 人 **外部講師** 7 人

- ねらい**
- (1) 自然災害などから自分や家族、友達などの命を守るための主体的な判断力、行動力を身につける。
 - (2) 豊かな体験活動をとおして、自主性や社会性を身に付けるとともに、地域の自然に親しみ、地域を知り、地域を愛する心を育む。
 - (3) 友達などと協力して活動することで、協調性や感謝と思いやりの心を育むとともに、みんなで協力して自然災害等に対応する力を身に付ける。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
9:00	藤塚小学校出発		
10:00	滝谷森林公園到着 ★川に入りロープをはる役 (6 人)・岸での監視役 (3 人) を担当していただく方 (先生または保護者ボランティア) に事前説明を行う。		外部講師
10:15	【活動 1 川流れ体験】 (参考 P. 95 ~ 96) ①活動、ライフジャケットの着方の説明。 ② 2 つの体験を行う。 A. 「浮いて待て」の体験 ・「浮いて待て」の体験 ・流れが速い場所、冷たい場所を覚えておく B. ペットボトルで救助体験 ①救助するロープの結び方を考える ②ロープを付けたペットボトルを投げる ③実際に川に投げて、川の流れの違いに気付かせる ★川流れ実験では、川の場所により深さや流れが大きく違うことが実感できるようにする。 ★天候により水量が違うことに気付かせる。 ★いざという時に、身近なもので身を守るものを作る (工夫する) 視点とつなげる。	ペットボトル・ヘルメット・ライフジャケット×人数 10m 程度 PP ロープ×人数・フローティングロープ×3 本・救命浮環×2 個・拡声器等	
11:45	★何か危険を感じたら笛や拡声器で知らせる。全員で、子どもの安全管理に注意する。		
11:45	支度 滝谷森林公園出発		学校
12:05	あかたにの家到着 シャワー・着替え		
12:20	【活動 2 サバイバルクッキング】 (会場：炊事場、食堂) (参考 P. 111 ~ 112) ①サバイバルクッキングの説明。 ②ポリ袋にお米と水を入れ洗い、ビニール袋を結ぶ。 ③準備したお米と、保護者ボランティアさんの作った野菜スープを鍋に入れる。 ※炊事場で炊く班と食堂で炊く班に分かれる。 ※体験時間が短いため、野菜スープの準備 (野菜を切る・1 人分ずつアイラップに入れて結ぶ) は保護者、あかたにの家職員で事前に準備。	食材 (学校)・アイラップ・鍋・コンロ・ゴミ袋 (救給カレー、乾パンはおみやげ)	外部講師
13:00	昼食、片付け		学校
14:00	終わりの会、記念撮影		
14:10	あかたにの家出発		学校

当日の様子



川体験活動の準備



ペットボトルで救助体験



浮いて待ての体験



サバイバルクッキング体験



振り返り

参加した児童の感想・気付き

- ・思っていたよりも川の水が冷たくてびっくりしました。毎年やっている着衣泳教室では、プールで簡単にペットボトルで浮くことができましたが、川では流れがあって浮くことがむずかしかったです。
- ・水を入れないペットボトルよりも水を入れたペットボトルの方が遠くまで飛ぶことが分かり驚きました。川などで救助するときにはいかにすることができるように覚えたいです。

参加した先生の声

- ・海に面している学校として早くから着衣泳などの取組を行ってきた。プールでの体験ではかなり浮くことができていたが、実際の川となると水の冷たさや流れの速さから思うようにいかないことが体験でき、子どもたちの危機意識が高まったと感じた。
- ・実際に川に入って救助体験や川の流れ体験ができ、川の冷たさや流れの速さなど身をもって体験でき貴重な経験でした。

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>新発田市内で、唯一海に面しているが、現在漁業に携わって生計を立てている家庭はなく、農地もほとんどないため、住宅地にある学校として校区も市内で一番狭い。学級数8学級全校児童数123名の小規模校である。</p> <p>平成24年度に県の津波防災モデル実践校に指定され、防災教育に対して地域も保護者も関心が高く、教育活動にも協力的である。</p> <p>地域で起こりうる可能性の高い災害は、新発田市で唯一海に面している学校として津波とともに浸水である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>当校における避難訓練は、学校にいる時（授業中や休み時間）だけでなく、子ども達が登下校している時や自分の家にいる時など、学校外で起こることも考え実施している地域の自然環境や避難場所、避難方法等について知るとともに、災害時、どこにいても自分の身を自分で守れる子に育てていきたいと考える。</p>
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害を身近なものとして捉え、“自分の命は自分で守る”という意識をもち、主体的に身を守る行動ができる児童 ・地域の一員であることを自覚し、進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができるように、自分ができることを考え実行することができる児童 <4年生防災キャンプ> ・災害時の実体験を通し被害実態を捉えるとともに、災害から生き抜く力を育む活動ができる。 ・友達などと助け合い協力し合う活動を通して、協調性や感謝と思いやりの態度を養うことができる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>4学年を対象に、新発田市の青少年宿泊施設「あかたにの家」で、1日防災体験学習を行った。NPO法人「ふるさと未来創造堂」の方を講師に、川流れ体験・ペットボトルでの救助方法体験、かまどでの非常食作りと試食について学習した。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・一日4年生防災キャンプの実施 ・年7回の避難訓練（うち、地域の避難場所確認・通学路危険箇所確認、着衣泳教室を含む） ・年1回の地域住民、保護者との避難訓練後の引き渡し訓練（地域・家庭との連携）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置付けた防災教育プログラムを活用した授業の実施 ・4年生防災キャンプの確実な実施 ・地域の危険箇所や避難場所等について、児童や職員、保護者間においても共通理解を図る確認 ・家庭や地域連携の避難訓練実施及び参加協力への働き掛け

新発田市立藤塚小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災教育プログラムを活用した授業

(原子力災害)

防災教育プログラムを活用した授業 (雪災害) + 下校指導

防災教育プログラムを活用した授業 (地震災害) +
避難訓練 (休憩時の地震対応)

防災教育プログラムを活用した授業 (洪水災害) +
なかよし班遠足 (避難場所, 海拔表示, 防火消火柱確認)

防災
キャンプ

防災教育プログラムを活用した授業 (津波災害) +
避難訓練 (着衣泳教室)

防災教育プログラムを活用した授業 +
地域住民, 保護者, 児童合同避難訓練 + 引き渡し訓練

防災教育プログラムを活用した授業 (津波災害) +
避難訓練 (避難場所確認)

新発田市立加治川小学校の事例

日時 平成 29 年 7 月 25 日 (火) 8:40 ~ 15:10 (日帰り) **場所** あかたにの家

学年 第 4 学年 49 人 **引率** 教員 14 人 **外部講師** 4 人

- ねらい**
- (1) 災害時の避難生活の一部の体験活動を通じて災害時に役立つ防災知識や技能を身に付ける。
 - (2) 仲間と協力する活動を通して、チームで協力することの大切さを実感する。
 - (3) レクリエーション活動を通して身に付けた知識や技能の生かし方を考える。

【活動の内容】

時間	内容 (★留意点)	準備品	担当
8:40	加治川小学校出発		
9:20 9:40 11:20	あかたにの家到着 【活動 1 防災レクリエーション】 (会場：体育館) (参考 P. 99 ~ 102) ①過去の自然災害の様子を写真資料から知る。 ②班で体験コーナーを 4 つ体験する。 ・水消火器体験 ・毛布担架作りと搬送体験 ・防災クイズラリー ・新聞紙スリッパ、紙食器作り ③まとめ ★災害が起きたときは、まずは自分の命を自分で守ること、自分の命を守った後は今日の体験のようにみんなで協力して行動することを押さえる。 ★災害時の行動として避難所に避難することを伝え、午後からは避難所での課題や自分たちができることを考え、体験することを伝える。	クイズラリー 掲示用クイズ、クイズラリー (解答) 用紙 水消火器 水消火器 × 6 本 + 予備・カラーコーン × 3 個 (消火をする火元として使う) 毛布担架 毛布 × 6 枚・担架用の棒 × 12 本 スリッパ・紙食器 新聞紙 4 枚 × 人数	外部講師
11:40 12:40	【活動 2 非常食体験】 (会場：食堂) 昼食準備、昼食、休憩 12:40 班で準備作業や乾パン配付、ゴミ捨て場所にゴミ袋を設置	救給カレー・乾パン・ゴミ袋	学校
12:40 12:55	午前の活動振り返り (会場：食堂) しおりに感想や分かったことを記入する。 ★自分の命を自分で守ることを確認し、自分の命を守った後は行動として避難所に避難することを押さえる。 12:55 ★午後からは避難所での課題や自分たちができることを考えることを伝える。	しおり × 人数	外部講師
13:00 13:30	休憩		
13:30 14:45	【活動 3 避難所の課題解決型学習】 (会場：研修室 2) (参考 P. 106) ①午前中を振り返り、自分の命を守れなければ、他の人を助けられないことを確認する。絶対に自分の命は自分で守ることを伝える。 ②地震の揺れがおさまった後の避難所生活の様子を伝え、どんなことに困るか班で考え、発表する。 ③困りごとを少しでも良くするためにどんなことができるか班で考える。 ④③の内容から 1 つ問題を選び、どんな解決策があるのか班で考える。 ⑤各班から発表。 ⑥今日体験したことを自宅に帰ったら家族に教えるよう伝えてまとめる。 ★避難所や災害時の写真資料等から課題を設定し、自分たちでできることを考える。 ★熊本の避難所の小中学生を例に「自分にできることを考え、行動する勇気が大切なこと」を学ぶ。 14:45 ★人のために役立つためには、自分の命を守らなければいけないことを押さえる。	A3 用紙・プロッキー × 班数	外部講師
14:50 15:10	終わりの会、記念撮影 あかたにの家出発		学校

当日の様子



防災クイズラリー



水消火器体験



毛布担架作りと搬送体験



新聞紙スリッパ作り



避難所の困りごとを学習



グループワーク

参加した児童の感想・気付き

- ・水消火器や新聞紙を使ったスリッパ作り、毛布を使ったの担架作りなど、初めてのことが多く、楽しかった。
- ・実際に避難をすることになったら、色々な困ったことが起きることがわかった。でも、みんなで相談して、解決していくことが大事だと思った。
- ・避難することになったら、色々な立場の人のことを考えなければいけないことがわかった。

参加した先生の声

- ・児童にとっては、新しい体験が多く、貴重な学びになった。
- ・児童は、様々な活動を通して、仲間と協力することや、チームで協力することの大切さ・難しさに気付くことができた。
- ・担当の方と、事前に打ち合わせをすることができ、児童の実態に合った活動の目的を伝えることができた。そのおかげで、当日も、講師の方々が、目的を考慮しながら活動を進めてくださり、児童にとって価値のある活動にすることができた。

<新発田市立加治川小学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新発田市の中心から東よりに位置する、学級数12学級・全校児童数263名の学校である。 ・非常に広範囲な学区であること、また、統合して生まれた学校であるという経緯から、バス通学をしている児童の割合が非常に高いのが特徴的である。 ・児童の家は、川沿いから山間部まで、多種であるため、水害、土砂災害など、多様な災害の可能性が考えられる地域である。 ・保護者や地域は、学校での教育活動について協力的である。また、子どもたちの充実した活動や、安心安全な環境づくりのために、多くの支援をいただいている。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災への理解と、危険回避能力の育成 ・登下校時の安全確保 ・家庭や地域と連携した防災教育の実施
<p>防災教育において、目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら危険を予測し、自らの命を守るために主体的に行動できる児童 ・災害発生メカニズムや地域の防災体制について理解し活用できる児童
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>4学年を対象に、新発田市の青少年宿泊施設「あかたにの家」で、1日防災体験学習を行った。講師の方と共に、防災クイズラリー、新聞紙スリッパ作り、水消火器訓練、毛布を使った担架作り、非常食の試食、避難所を想定した課題解決学習などの活動に取り組んだ。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プログラムを活用した年間授業の実施 ・4年生防災キャンプの実施 ・年3回の避難訓練（5月、10月、2月） ・引き渡し訓練（家庭との連携）
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置付けた防災教育プログラムを活用した授業の実施 ・4年生防災キャンプの実施 ・4年生PTA親子行事とのタイアップ ・家庭や地域連携のための避難訓練参観実施及び参加協力への働き掛け

新発田市立加治川小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	防災教育プログラムを活用した授業（地震災害）	防災教育プログラムを活用した授業（洪水）・避難訓練（火災）	防災教育プログラムを活用した授業（原子力）・引き渡し訓練									
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

防災
キャンプ

4. プログラム紹介

川体験活動① 救助道具を作ろう・川の流れを詳しく知ろう

《体験時間》 45分～60分 《準備品》 ペットボトル、はさみ、ビニールロープ、フローティングロープ

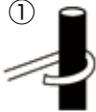
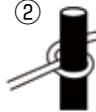
《ねらい》 自然体験活動を通じて、自然の良さ、日々受けている自然の恩恵を体験する。

川の内側と外側で流れが違うことや、流れる水の強さや速さを観察する。

川で流された人を救助するための工夫を学ぶ。

《教科との関連》 4年理科「天気による温度変化」、5年理科「流水の働き」、3,4年図画工作 等

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 洪水（必須2, 6）、津波（必須3）

時間	内容	ポイント（★）・留意点（※）
導入 (5分)	<p>1. 川遊びをするときに注意することを問いかける。</p> <p>2. 川で流されたり、おぼれている人を見つけたりしたときに、「ペットボトルで人を助けることができること」を伝える。</p>	<p>★学校で「着衣泳」や「浮いて待て」を体験している場合には、その際にペットボトルで身体が浮いた体験を想起させる。</p>
展開 (30分)	<p>3. ペットボトルとビニールロープで救助道具を作る。</p> <p>①グループに分かれて、以下について工夫を考えさせる。</p> <p>1) ペットボトルにロープを縛ることを伝え、「ほどけないように縛る」ためにはどうするか。</p> <p>2) ペットボトルにロープを縛って作った救助道具を「遠くまで投げる」ためにはどうするか。</p> <p>②各グループで考えたことを発表させる。</p> <p>③ほどけない結び方の一つとして「巻結び」を紹介し、救助道具作りを体験させる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>4. 川の深さや流れの速さが場所によって違うことに気付かせる。</p> <p>①救助道具を実際に川に投げ入れ、川の流れの速さや内側と外側で救助道具が流される速さの違い等を観察する。</p>	<p>※展開3-①1)～②は省略して、③の巻結びの体験から始めても良い。</p> <p>※結び方の手順は、以下のイラストを参照（ペットボトルの口の部分を縛るとほどけにくい。）</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: center;"> <div style="margin: 5px;">① </div> <div style="margin: 5px;">② </div> <div style="margin: 5px;">③ </div> <div style="margin: 5px;">④ </div> <div style="margin: 5px;">⑤ </div> </div> <p>★身近なものでも工夫をすれば、命を助けることができることを押さえる。</p> <p>★川の場合によって、深さや流れの速さが違うことが実感できるように投げ入れる場所を工夫する。</p>
まとめ (10分)	<p>5. 体験した感想を発表させて、まとめる。</p> <p>①活動を通しての感想を発表させる。</p> <p>②「川は自然の恵み。川がなければ人は生活ができないこと」を確認する。自然と共に生きる人として、右記のポイントを押さえて、まとめる。</p> <p>※自然とのかかわりや豊かな恵みを実感させるために、川の生き物等を捕まえておき、観察させてもよい。</p>	<p>★雨が降っているときや川の水が増えているときは、川に近づかないこと</p> <p>★川遊びをする時は、川の流れを確認し、必ず大人と行動すること</p> <p>★普段から身近な川の様子を知っておくことで、川の水の変化に気付くことができること</p>

川体験活動② 川流れ体験・浮いて待ての体験

《体験時間》 60分

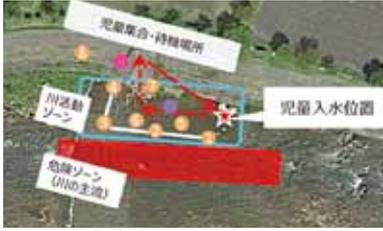
《準備品》 ヘルメット、ライフジャケット、フローティンググローブ、救命浮環、拡声器、ペットボトル、バスタオル、濡れても良い服と靴（かかとのあるもの）、着替え 等

《ねらい》 川流れ体験を通して、流れる水の強さや速さ、水温、川の中の様子等を体感する。

川と共生する人としての心構えや災害時に自分の身を守る行動を学ぶ。

《教科との関連》 4年理科「天気による温度変化」、5年理科「流水の働き」、3・4年体育「浮く・泳ぐ運動」
5年体育「水泳」、4～6年体育「体づくり運動」 等

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 洪水（必須2, 6）、津波（必須3）

時間	内容	ポイント（★）・留意点（※）
導入 (5分)	1. 川で流されてしまったときどのようにすれば良いかを問 いかけ、活動内容を説明する。	※事前に水位・水温・活動場所の 確認、準備運動を行うこと
展開① (15分)	2. ヘルメット、ライフジャケットの着用体験をし、川の流 れを観察させる。 ①ヘルメット、ライフジャケットの付け方を伝えて、二人一 組で着用させ、確認し合う。 ②着用後、岸から川の流れを観察させ、流れの違いに気付か せる。 ③活動スペース、注意点等を伝えた後、順番に体験させる。	※ライフジャケットの着用は時間 がかかる。大人の補助が必要。 ★ベルトをしっかりと締めること 股下のベルトも必ず止めること ★川の流れや深さの違いに気付か せ、活動場所外には出ないこと を伝える。
展開② (25分)	3. 川流れを体験させる。 ① 4、5名ずつ川に入れ、あせらず体験させる。 ※活動スペースの中間まで進んだら次の児童を入れる。進め 方は引率者の人数によって調整する。   ②体験を終えた子どもから順次岸に上げ、タオルで身体を拭 かせる。 ※水温が低い場合には、体験後すぐに体にバスタオルで身体 を包んだり、着替えさせたりして低体温症にならないよう 保温すること。バスタオルを巻いたままあかたにの家に移 動し、振り返りはシャワー後でもよい。	※活動場所の安全確保   ※人数が多い場合は、2グループ に分けて、川体験活動①と②を 交代で体験させるとよい。
まとめ (10分)	4. 体験した感想を発表させて、まとめる。 ①活動を通しての感想を発表させる。 ②「川は自然の恵み。川がなければ人は生活ができないこと」 を確認する。自然と共に生きる人として、右記のポイント を押さえて、まとめる。 ※自然とのかかわりや豊かな恵みを実感させるために、川の 生き物等を捕まえておき、観察させてもよい。	★雨が降っているときや川の水が 増えているときは、川に近づか ないこと ★川遊びをする時は、川の流れを確認し、必ず大人と行動すること ★普段から身近な川の様子を知っ ておくことで、川の水の変化に 気付くことができること

赤谷地域を散策して、いいところマップを作ろう

《体験時間》 120分

《準備品》 ポラロイドカメラ、赤谷地域の地図、A4用紙（メモ用）、はさみ、セロハンテープ、プロッキー、探検バッグ、水筒、帽子 等

《ねらい》 自地域との違いから、豊かな自然の魅力や日々享受している自然の恩恵を体感させる。自然と共に生きる人としての心構えを身に付ける。

《教科との関連》 3・4年社会「わたしのまちみんなのまち」、5年社会「わたしたちのくらしと国土」「国土の自然と共に生きる」、道徳「主として他の人とのかわりに関すること」等

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 津波（必須4,6、選択4,6,7）、地震（必須2,3、選択4,5）、洪水（必須2,4～6、必須1～3）、土砂（選択3,4）

時間	内容	ポイント（★）・留意点（※）
導入 (15分)	<p>1. 自分の住む地域にどんな自然があるのか問いかけ、赤谷地域のよい所を探すまち歩きをすることを伝える。</p> <p>①地域を歩いて、1人1枚おすすめの場所の写真を撮ること ②見つけた地域の良いところを地図に書きこむこと</p> <p>2. 活動の流れを伝えて、グループで役割分担をさせる。</p> <p>①カメラは班長が持つ。赤谷地域の地図を持つ子どもとA4用紙にメモをする子どもを班内で決めさせる。 ※予め役割を決めておくとよい。</p> <p>3. トイレを済ませ、持ち物の準備ができたら玄関前に移動し、出発する。</p>	<p>※4、5名で1グループを想定 ※グループの持ち物 ポラロイドカメラ×1台、赤谷地域の地図×1枚、筆記用具・探検バッグ・A4用紙</p> <p>★自分の地域との違いに着目させ、自分の地域にはない植物や風景を探すこと</p> <p>★写真をとった場所は地図に印を付けること</p>
展開① (70分)	<p>4. 赤谷地域を散策する。</p> <p>①途中休憩を入れながら、赤谷地域を散策する。 ※地域の方に案内をしてもらい、野草や花についてや、地域の歴史など教えてもらいながら交流を深められると良い。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p>※散策時は道で子どもが膨らまないよう、班ごとに2列で歩かせる。児童の安全管理に留意する。</p> <p>★歩くルートは事前に決めておく。子どもが普通に歩く時間の2、3倍の時間がかかる。</p> <p>※自地域で行うことも可能。地域の人と一緒に災害時の危険予測（ブロック塀、用水路、瓦など）や、災害時に知っておくとよい場所（避難場所や防災倉庫など）等も確認しながら歩くとよい。</p>
展開② (25分)	<p>5. 赤谷地域のいいところマップを作成させる。</p> <p>①写真のいいところを、フィルムの下に書かせる。</p> <p>②写真を撮影した場所を確認させて、写真を貼らせる。 時間があれば、撮影した場所以外にも見つけた良いところを記入させる。</p> <p>③見つけたいいところを発表し合わせる。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	<p>★どんなところがいいと思ったのか、どんな魅力があったのか、地図やフィルムに記入させる。</p> <p>★写真の風景と地図の位置情報を結び付けさせる。</p>
まとめ (10分)	<p>6. 活動を振り返り、まとめる。</p> <p>①豊かな自然とともに生活するという事は、自然に近づいて生活をしているということ。自然災害に合う可能性も高いことを伝え、自然災害に備えることを伝える。</p>	<p>★日頃から自分の地域がどのような特徴を持つ地域か知っておくことや自然の変化に敏感になること</p>

地域のハザードマップを活用した学習活動

《体験時間》 70分～90分

《準備品》 学区のハザードマップ (A3カラー)、プロッキー、学区の白地図 (A2以上が望ましい)

《ねらい》 地図を活用して、自地域に起こりえる自然災害について理解する。

自然災害に備える心構えや災害に命を守る行動について考える。

《教科との関連》 4年社会「安全な暮らしとまちづくり」、5年社会「わたしたちの暮らしと国土」、
「国土の自然と共に生きる」、5年理科「台風接近」、「天気の変化」、「川と災害」等

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 津波 (選択3)、地震 (選択9)、洪水 (必須4)、土砂 (選択1,2,6)

時間	内容	ポイント (★)・留意点 (※)
導入 (15分)	<p>1. 自然の恵みと災いの関係について伝える。</p> <p>①写真資料等で自然の恵みについて紹介し、私たちの暮らしの中で自然がとても大切なことを確認する。</p> <p>②自然と共に生きる人として、自分の地域にはどのような自然災害が起こりやすいのか考えることを伝える。</p> <p>2. 大雨が引き起こす自然災害について、写真資料を使い説明する。※以下、洪水災害を題材に進行した例</p>	<p>※4、5名で1グループを想定</p> <p>※雨や川にしぼり、加治川の役割、水辺の植物や生き物、食物等を紹介してもよい。</p> <p>★豊かな恵みを受けているということは、自然に近づいて生活をしていることを押さえる。</p>
展開① (40分) ※休憩 5分含む	<p>3. 2種類の地図を活用して、自地域の危険性を考える。</p> <p>①グループで、学区の白地図から学校・自分の家・川・主要道路・目印になる建物や知っている場所等を探し、地図に書き込ませる。</p>  <p>②洪水ハザードマップの見方 (色の違い・避難場所等) を説明し、自地域で大雨が降り続けると、どのような危険が想定されているのか、避難所・避難場所はどこかを確認させ、白地図に書込ませる。</p> 	<p>※時間が少ない場合</p> <p>・白地図は使用せず、ハザードマップに直接書き込む。</p> <p>・川や主要道路、地図上で確認するのみにする。</p> <p>★学校の位置を最初に見つけさせ、通学路を考えながら自分の家を探させると進めやすい。</p> <p>※どの場所を何色で書くかを明確にする。</p>
展開② (25分)	<p>4. 洪水災害から自分の身を守る行動を考えさせる。</p> <p>①自宅にいるときに大雨が降り続けている状況をイメージさせ、どこにどのようにして避難するかを話し合わせ、白地図に書込ませる。</p> <p>②グループで話し合った結果 (どのようなことに気をつけて避難ルートを考えたか、またはどのようなことに悩んだか等) を発表させる。</p>	<p>★悩んで決められなくともよい。考えることが重要。悩んだことを発表させて、助言する。</p>
まとめ (10分)	<p>5. 洪水災害から自分の身を守るポイントを伝えて、まとめる。</p> <p>①大雨が降っているときは、川に近付かないこと</p> <p>②洪水災害は予想ができる。早めに情報収集 (テレビ・ラジオ等) が大切なこと</p> <p>③屋外に逃げるなら、浸水前の早めの避難すること</p> <p>④浸水後の外へのは危険。自宅の2階以上に避難すること</p> <p>⑤普段から雨の降り方や川の様子を気にかけておくこと</p>	<p>★日頃から自分の地域がどのような特徴を持つ地域か知っておくことや自然の変化に敏感になること</p>

防災レクリエーション

《体験時間》 導入・まとめで 15 分+ 1 活動につき 20 分～ 25 分

《準備品》 ※活動内容で異なるため、次頁以降を参照

《ねらい》 自分の命を守った後、周りの人と協力することで他者のためにできることを体験する。
身の回りにあるものを工夫すると困りごとを解決する防災グッズが作れることを体験する。
協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。

《教科との関連》 4 年社会科「安全な暮らしとまちづくり」、
道徳「主として他の人とのかわりに関すること」、「生命尊重」等

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 地震（必須 2,3）、洪水（必須 1,2,4,5）、土砂（必須 1～3）

時間	内容	ポイント（★）・留意点（※）
導入 (8分)	1. 自然災害発生時に困ることを写真資料等で伝えて、学習の動機付けをする。 2. 体験活動の内容や回り方について説明をする。	※ 4、5 名で 1 グループ ★なんのためにこの体験活動をするのかを明確にすること
展開 (時間は体験プログラム数によって変動)	3. グループで協力して、様々な活動を体験させる。 【水消火器体験】   【毛布担架づくりと搬送体験】   【身近なもので応急手当体験】  	※以下は、体験活動プログラムの一例。詳細は次頁以降を参照。 様々な組み合わせが可能 ※熱中症対策として、1 つ活動を終えたら、給水して次の活動を体験する。
まとめ (7分)	4. 感想を発表させ、まとめる。 ①数名から感想を発表させる。 ②以下の点を押さえて、活動をまとめる。 ・まずは自分の身を自分で守れなければ、人を助けることができないこと ・自分の命を守った後は、他者のために役に立てること	★体験したことを家庭で伝えることで、家族ぐるみで意識を高める機会につなげること

“ダンボールパーテーション”の作り方

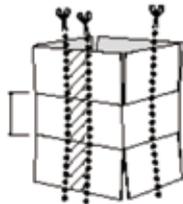
身近なものを工夫して
防災グッズを作ろう！



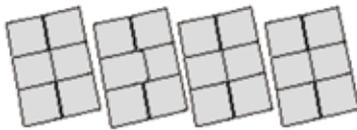
- 準備するもの：ダンボール 3箱、はさみ
- 活動の時間：15～20分

① 土台をつくる

土台を作るには
箱の深さができ
るだけ浅いもの
を選んで下さい



点線部分を切ります
反対側も同じように切ります

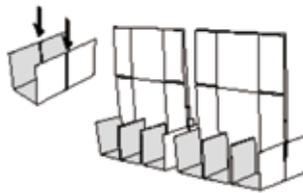


→ひと箱で土台パーツが4個作れます

② ついたてを差し込む

A. ガムテープが無い場合

土台をコの字に曲げ、できるだけ隙間の無いようにたくさん配置します
この隙間に、他のダンボール箱を平らにしたものを差し込みます

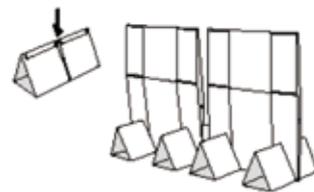


※ついたてのダンボールはタテに差し込むのがポイントです
ついたての高さは最低80cmあれば、床に座ったときに視線が合わなくなります

B. ガムテープがある場合

土台を三角形にし、ガムテープで留めます

この隙間に、他のダンボール箱を平らにしたものを差し込みます



作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

“応急手当(傷の手当)”の方法

切り傷があった場合、

- ① まずは、水で洗って清潔にする

<直接圧迫法>

- ② 直接傷口に触ると、ばい菌が入るかもしれない
また、何か感染(うつってしまう)してしまうかも
清潔なタオルなどで傷口を少し力を入れて押さえる



<間接圧迫法>

- ③ それでも血が止まらない時は、心臓より高い位置に腕を上げ、
太い血管(腕であれば、脇の下付近)を親指で押さえる



“応急手当(ビニール袋で固定)”の方法

- ① 持ち手の真ん中から底までハサミで切る



- ② 反対側は少し残して同じように切る



- ③ ②で少し残して切った方から腕に通す



- ④ 持ち手の部分に頭を通す



※骨折している時は動かすと痛い！片手で腕を動かさないように押さえてかぶせてあげるといいよ！

- ⑤ ②で少し残した部分がひじを置く場所になる



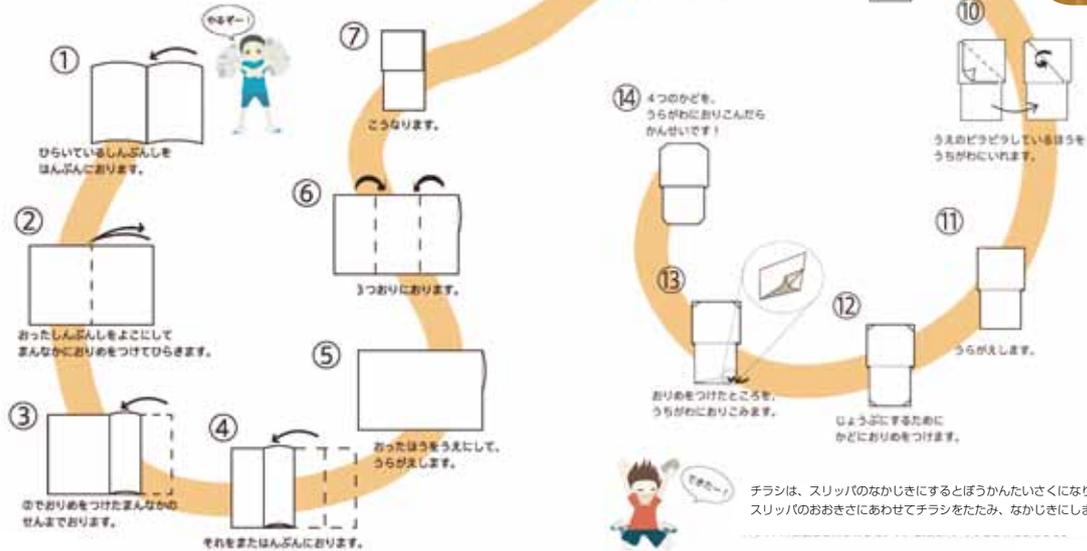
作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

参考 防災レクリエーションの活動プログラム例②

“新聞紙スリッパ”の作り方

- 準備するもの：新聞紙 2 枚 (1 足分)
- 活動の時間：15 ~ 20 分

身近なものを工夫して
防災グッズを作ろう！



チャラシは、スリッパのなかじきにするとうほかんたいさくになります。スリッパのおおきさにあわせてチャラシをたたみ、なかじきにしましょう。

出典：長岡市防災玉手箱 作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

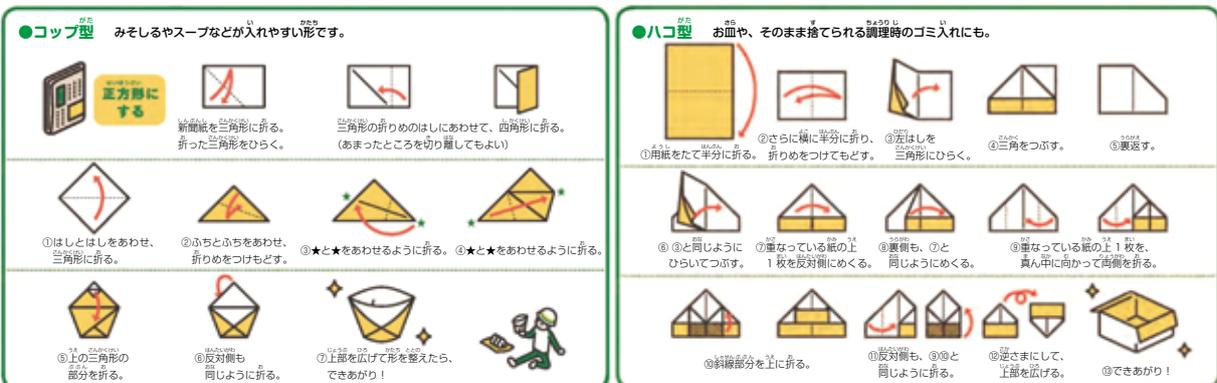
“新聞紙で紙食器”の作り方

- 準備するもの：新聞紙 2 枚
- 活動の時間：15 ~ 20 分

身近なものを工夫して
防災グッズを作ろう！



いらなくなった新聞紙やチャラシを容器の形に折り、ラップやポリぶくろをかぶせれば食器として使えます。



資料提供：NPO 法人プラスアーツ

出典：長岡市防災玉手箱 作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

“水消火器”の使い方

- 準備するもの：水消火器
- 活動の時間：15～20分

①「火事だ～！」と大きな声で叫ぶ

②水消火器の安全ピンを抜く

③ホースの口の部分をもって、
火元に向ける

④レバーを強くにぎり、
5メートルくらいの距離から
発射する



水消火器を使って、
消火訓練をしよう！



炎をねらうのではなく、
火の根本をはくように
ホースを左右に振って
消火しよう！



作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

“毛布で応急担架”の作り方

- 準備するもの：毛布 1 枚、棒 2 本
- 活動の時間：15～20分
- 注意点：①担架を運ぶ前に、通路確保の確認をする

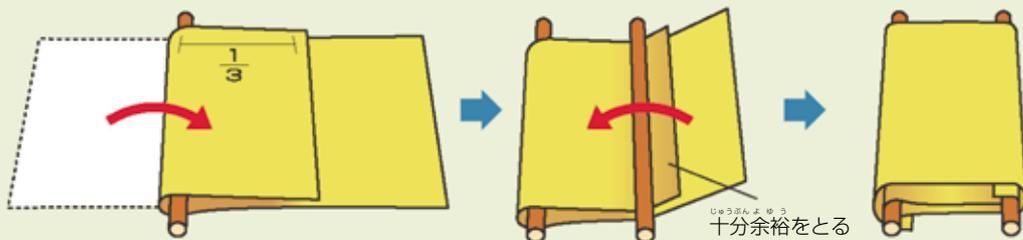
- ②号令は頭の方を持っている人がかけ、「イチ、ニ、サン」で持ち上げる
(腰をまげて持ち上げると、腰をいためるので、片足を下げ、背筋と腕を伸ばしたまま、まっすぐ上に立つ)
- ③運ぶ時は足側を進行方向に！

動けない人を運ぶ時、
毛布で応急担架を作ろう！



毛布を使う

毛布の $1/3$ のところに棒を置いて、毛布を折り返して作ります。



出典：チャレンジ！防災48

作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

身近なものを工夫して防災グッズを作ろう

《体験時間》 導入・まとめで 15 分+活動プログラムの時間

《準備品》 ※体験内容によって異なるため、次頁以降を参照

《ねらい》 災害が発生した後の困りごとについて考える。

身の回りにあるものを工夫すると困りごとを解決する防災グッズが作れることを体験する。
協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。

《教科との関連》 3,4 年図画工作、道徳「主として他の人とのかわりに関すること」

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 地震（必須 3、選択 2, 3, 6）

時間	内容	ポイント (★)・留意点 (※)
導入 (8 分)	1. 自然災害発生後や避難所の様子を写真資料等で見せ、困ることを伝える。 2. 困りごとを解決するために、身近なものを工夫すると災害時に役立つ防災グッズが作れることを伝えて、学習の動機付けをする。	※ 4、5 名で 1 グループ ★ なんのためにこの体験活動をするのかを明確にすること
展開 (時間は体験プログラム内容や数によって変動)	3. グループで協力して、様々な活動を体験させる。 【新聞紙スリッパ作り】  【ゴミ袋で雨がっぱ作り】   【段ボールシェルター作り】  	※ 以下は、体験活動プログラムの一例。詳細は次頁以降を参照。 様々な組み合わせが可能 ★ グループで協力させ、上手く作れない子どもをサポートするように声かけをする。 ※ 段ボールシェルターやパーテーションは、見本があれば作り方がなくても、考えながら協力して製作可能。
まとめ (7 分)	4. 感想を発表させ、まとめる。 ① 数名から感想を発表させる。 ② 以下の点を押さえて、活動をまとめる。 ・ 身近なものの工夫から、役に立つものが作れること ・ 自分の身を守った後は、他者のために役に立てること ・ ものがなければ工夫もできない。各家庭に必要なものを備えておくこと	★ 体験したことを家族に伝えたり、家庭での備えについて家族と話したりする機会につなげて、家族ぐるみで意識を高めさせること

参考 身近なものの工夫で作れる防災グッズの一例①

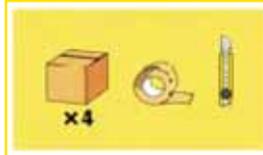
“ダンボールシェルター”の作り方

身近なものを工夫して
防災グッズを作ろう！



●準備するもの：ダンボール 4 箱、ガムテープ、はさみ、ダンボールカッター

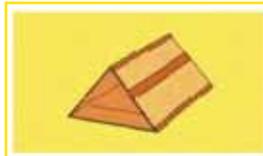
●活動の時間：20～30分



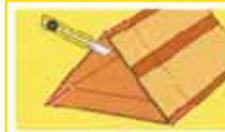
1 同じサイズのダンボール 4 つとガムテープ、カッターを用意する。



2 ダンボールを広げ、4 つの角の部分にガムテープを貼り補強する。



3 広げたダンボールを筒状の三角形になるように折る。
折った部分もガムテープで補強。この作業を3箱分繰り返す。



4 1 つのダンボールの片側のふたの部分に切り込みを入れ、内側に折り込むことでダンボールの片側をふさぐ部分を完成させる。
これでシェルターの足下となる部分が出来る。

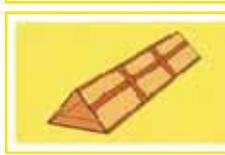
ダンボールシェルターを考えた人



福島県いわき市小名浜公民館館長 高橋 明元 さん



5 足下部分が完成したダンボールに残り 2 箱を接続し、重なり合った部分をガムテープで補強する。
これで、ひと人が入れるダンボールシェルターの大枠が出来上がる。



6 足下部分と反対側のふた部分を、先ほどの足下部分と同様に内側に折り込む。この時、ガムテープを50cmほど取り出し、ひも状の輪にした簡易のとつてを内側に貼り付け、巾から入り口のふたを開閉出来るようにする。あとは残りの 1 つのダンボールを中敷きとして床の部分に広げれば完成。

資料引用：http://www.nhk.or.jp/in/snnae/mirai/program_nagata01/try.html

作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

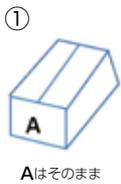
“ダンボールトイレ”の作り方

身近なものを工夫して
防災グッズを作ろう！

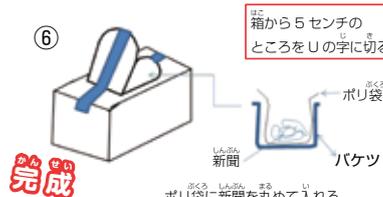
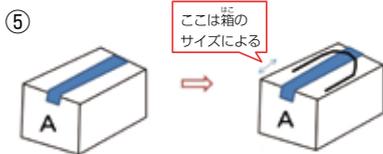
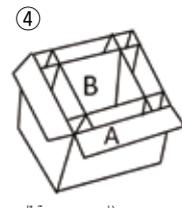
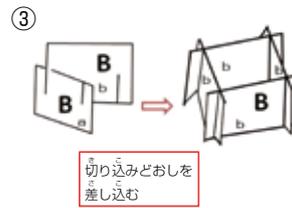
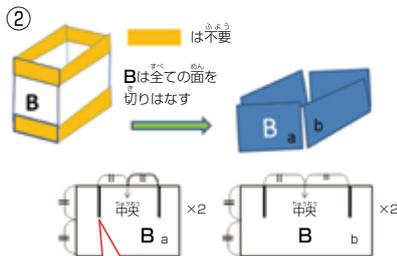


●準備するもの：ダンボール 2 箱、はさみ、カッター、ガムテープ

●活動の時間：20～30分



Aはそのまま



ポリ袋に新聞を丸めて入れる。
使用后、袋ごと捨てる。

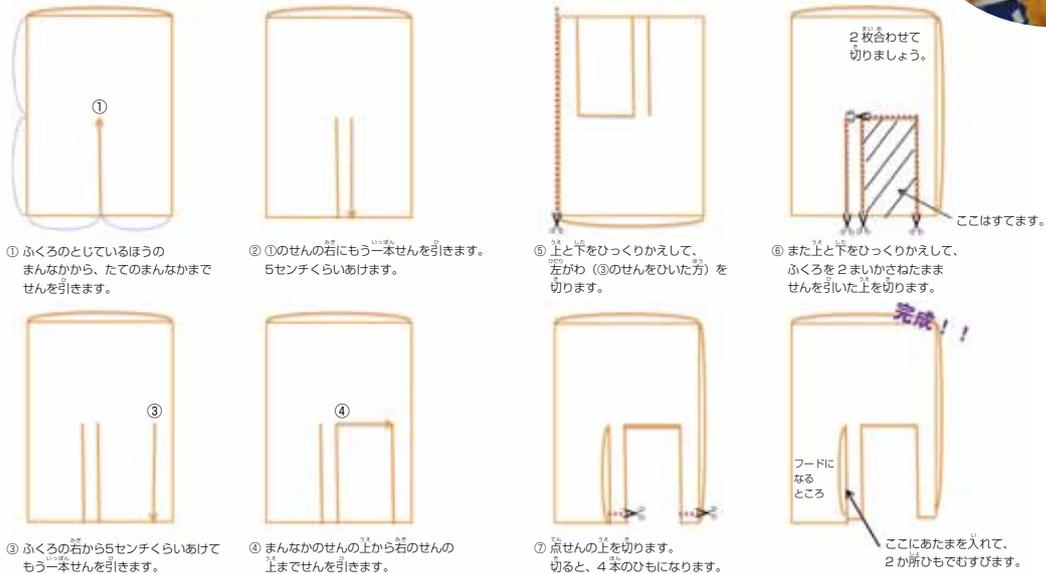
出典：http://www9.ocn.ne.jp/usabwako/newpage5.html

作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

参考 身近なものの工夫で作れる防災グッズの一例②

“ごみ袋で雨がっぱ”の作り方

- 準備するもの：ごみ袋 1 枚 (45 リットル)、はさみ
- 活動の時間：30 ~ 40 分



作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

身近なものを工夫して防災グッズを作ろう!



“LEDミニランタン”の作り方

- 準備するもの：LED ライト、電池、工作用紙、カラーセロハン、工作マット、はさみ、
ガムテープ、セロテープ、カッター、じょうぎ、両面テープ、マジック (10 色)
- 活動の時間：45 ~ 60 分

- LED ライトに電池を入れる
 - 工作用紙に折り目をつける (LED ライトの箱に合わせる)
 - デザインを考える
 - 下絵をかく (うらにかくときれいにできる)
 - カッターで切りぬく
 - うしろからカラーセロハンをはる
 - 組み立てる
- LED ライトの箱に両面テープをはる→まわりをはりつける
- のりしろ部分に両面テープをはる→つなげる

身近なものを工夫して防災グッズを作ろう!



作成：NPO 法人ふるさと未来創造堂

避難所の困りごとを知り、解決策を考えよう

《体験時間》 60分

《準備品》 A3用紙、プロッキー

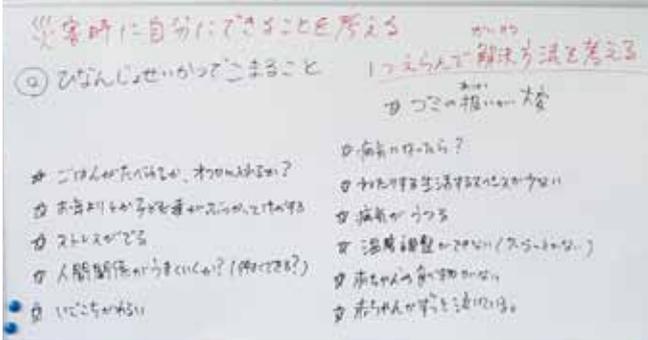
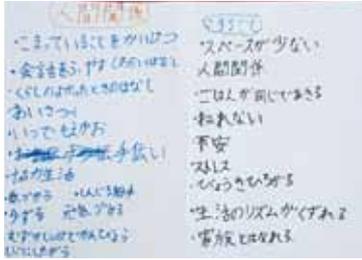
《ねらい》 災害時の避難所生活について知り、自分たちにできることを考える。

《教科との関連》 4年社会科「安全なくらしとまちづくり」、「昔から今へと続くまちづくり」

5年社会「わたしたちのくらしと国土」、「国土の自然と共に生きる」

5年理科「台風接近」、「川と災害」、道徳「主として他の人とのかわりに関すること」等

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 津波（選択3）、地震（選択9）、洪水（必須4）、土砂（選択2,6）

時間	内容	ポイント(★)・留意点(※)
導入① (10分)	1. 災害が発生した後の生活について伝える。 ①写真資料やイラスト資料を見せて、以下の点について伝える。 ・電気、ガス、水道等が使えなくなることがあること ・自宅で生活ができないときや自宅にいるのが不安なとき、避難所で大勢の人と一緒に生活すること	※4、5名で1グループ ※写真資料は新潟県防災教育プログラム【地震災害編】を活用するとよい。 ※避難所生活の経験がある方や専門家等と協力して進められるとよい。
展開① (20分)	2. グループワーク① ①あかたにの家で、明日の朝まで避難所生活をする伝えて、どのようなことに困るか、グループで話し合わせる。 ②グループで考えたことを発表させる。 	★具体的な条件を伝えること ・避難所の様子(写真資料等) ・季節や時期 ・自分たち以外にもこれから避難してくる人がいる (一例) ・電気が使えるのは就寝する部屋(体育館)のみ ・水はトイレのみ使える(水道の蛇口等は全て使用不可) ・ガスは使えない等
展開② (23分)	3. グループワーク② ①避難所生活は困りごとが沢山あることを確認する。 ②困りごとを解決するまたは、少しでも良くするために自分たちにできることはないかをグループで話し合わせ、考えたことをA3用紙に書かせる。 ③グループで考えたことを発表させる。 ④発表内容に対して、1人でもできるかを問い返し、1人では難しいことも、「友達や家族、大人と協力することで、困りごとを減らせること」を押しさえる。	
まとめ (7分)	4. 避難所生活の心構えや自分たちにできることを伝えて、まとめる。 ①過去の災害時に、小・中学生が活躍していた事例等を紹介し、小学生にもできることがあることを伝える。 ②避難所生活は「皆で協力すること・自分にできることを一生懸命頑張ること」を伝えて、まとめる。	

非常用持ち出し品を考えよう

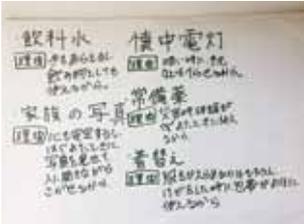
《体験時間》 50分

《準備品》 防災グッズチェックリスト（長岡震災アーカイブセンターきおくみらい作成※他のものでもよい）、A3用紙、プロッキー

《ねらい》 災害時に必要な非常用持ち出し品について家族と話し合い、備える必要性を学ぶ。

《教科との関連》 4年社会科「安全な暮らしとまちづくり」、
道徳「主として他の人のかかわりに関すること」「生命の尊重」

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 地震（必須3、選択2、3、6）

時間	内容	ポイント（★）・留意点（※）
導入 (10分)	<p>1. 災害が発生した後の生活について伝える。</p> <p>①写真資料やイラスト資料を見せて、災害時には電気、ガス、水道、電話、インターネットが使えなくなることがあることを伝える。</p> <p>②電気、ガス、水道等が使えないとどのようなことに困るかを伝える。(または問いかける。)</p> <p>③各家庭で非常用持ち出し品を準備しているかを問いかけ、グループで相談して、災害時に必要な非常用持ち出し品を考えることを伝える。</p>	<p>※ 4、5名で1グループ</p> <p>※写真資料は新潟県防災教育プログラム【地震災害編】を活用するとよい。</p> <p>※被災の経験がある方や専門家等と協力して進められるとよい。</p> <p>※新発田市の災害備蓄状況を伝えるのも良い。</p>
展開 (35分)	<p>2. 必要な非常用持ち出し品を考えさせる。</p> <p>①参考資料（防災グッズチェックリスト）を配布し、まずは個人で「災害時に特に必要だと思う防災グッズ」を5つ選ばせる。</p> <p>②個人で選んだものと選んだ理由を、グループ内で発表し合わせる。</p> <p>③グループで話し合わせ、「特に必要だと思う防災グッズ」を5つ選ばせる。</p> <p>④「選んだもの」と「選んだ理由」とA3用紙に書かせる。</p> <p>⑤グループごとに「選んだもの」と「選んだ理由」を発表させる。</p>	<p>★リストに載っているものは全て必要な物。正解・不正解はない。その中で自分が特に必要だと思うものを選ばせること。</p> <p>★班で相談する際、決められないこともある。一人一人必要だと思うものや価値観の違いを尊重しつつ、話し合いを促す。</p> <p>参考資料：防災グッズチェックリスト</p>
	 	
まとめ (10分)	<p>3. 各家庭で必要な非常用持ち出し品が違うことを伝え、家族と必要な備えについて話し合う大切さを伝える。</p> <p>①個人、グループでも違うように、家庭で必要な備えは、家族構成や価値観によっても異なることを伝える。</p> <p>②自分の家族にあった非常用持ち出し品を準備するために、自宅に帰ったら家族と必要な備えについて話し合うことを伝えて、まとめる。</p>	<p>★家庭での備えを家族と話す機会から、家族ぐるみで意識を高めさせること</p>

語り部等を活用した学習活動

《体験時間》 45分～80分

《準備品》 写真資料、A3用紙、プロッキー

《ねらい》 羽越水害や下越水害等の被災体験談を聞き、自地域で発生した災害を知る。
自然災害に備えた心構えや災害時に自分の身を守る行動を考える。

《教科との関連》 4年社会科「安全なくらしとまちづくり」、「昔から今へと続くまちづくり」
5年社会「わたしたちのくらしと国土」、「国土の自然と共に生きる」
5年理科「台風接近」「天気の変化」「川と災害」等

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 津波（選択3）、地震（選択9）、洪水（必須4）、土砂（選択2,6）

時間	内容	ポイント（★）・留意点（※）
導入 (5分)	1. 活動の流れを伝えて、ゲストスピーカーを紹介する。 ①話していただく内容を簡単に説明し、ゲストスピーカーを紹介する。	
展開① (10分～40分)	2. ゲストスピーカーの体験談を聞かせる。 ①被災時の状況や感じたことなど、写真資料等を使用して、話していただく。 ※模造紙にお話の内容を見える化していくと良い。 例：七葉小学校 	★進め方について、ゲストスピーカーと事前に打ち合わせをすること ・お話の時間と内容 ・写真資料等の準備 ・ポイントになるお話 ※伝えたい思いが強く、情報量が多い方もいる。「川が溢れる前からあふれた後のまちの様子について伝えてほしい。」など、話してほしい内容を明確に伝えておくと活動が進めやすい。
展開② (20分)	4. グループワーク ①被害の状況や避難の様子を聞き、そのときどのように行動するか等をグループで話し合わせる。  ②グループで考えたことを発表させる。 ※可能であれば、子どもの発表に対しゲストスピーカーからコメントをしてもらうのもよい。	★聞いたお話に関連させる等、子どもがイメージをできる状況を具体的に伝えること 「夕方自宅で一人。昼過ぎから傘が役に立たないくらいの大雨が降り続けています。あなたはどのように行動しますか？」 「大雨が降り続き、家族と避難所に避難した。避難所の中では、みんな不安そうにしている。少しでも避難所の雰囲気を良くするために自分たちにできることは？」
まとめ (10分)	5. まとめ ①学習をしてわかったことや感想をワークシート等にかかせ、数名から発表させる。	

宿泊体験プログラム① 避難所生活の準備をしよう

《体験時間》 90分

《準備品》 ペットボトルの飲料水、飲めない水、バケツ、雑巾、毛布、段ボール、アルミマット、模造紙、A3用紙、セロテープ、布ガムテープ、ビニール袋、ハサミ、プロッキー、ウエットティッシュ、手回しラジオ付き懐中電灯、電池式ランタン 等

《ねらい》 避難所生活の困りごとを知り、避難所生活を体験する準備をする。

あるものを工夫し、相談して決めていく過程を通じて、譲る・協力することの大切さを学ぶ。

《教科との関連》 道徳「主として他の人とのかかわりに関すること」

学活「日常生活や学習への適応及び健康安全」等

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 地震（必須5、選択3,6）

時間	内容	ポイント(★)・留意点(※)
導入 (10分)	<p>1. 避難所、避難所生活の困りごとについて伝える。</p> <p>①写真資料等を使用して、以下の点を伝える。</p> <p>1) 避難所は乳幼児から高齢者まで、皆で生活をする場所</p> <p>2) 避難所生活では様々な困りごとがあること</p> <p>②避難所生活を乗り切るために「全員で協力しなければならない」ことを押さえる。</p> <p>③役割分担をし、避難所生活の準備をすることを伝える。</p>	<p>※写真資料は新潟県防災教育プログラム【地震災害編】を活用するとよい。</p>
展開 (65分)	<p>2. 役割分担をして、避難所生活の準備をさせる。</p> <p>①物資班、環境えいせい班、生活ルール班等を編成し、班長、副班長を決めさせる。</p> <p>②各班の活動内容を伝え、班ごとに活動させる。</p> <p>※ 班の活動内容の例</p> <p>【物資班】</p> <p>①備蓄してあるものの数量を確認して、在庫表に記入</p> <p>②水とウエットティッシュ等の衛生用品を、各グループに配る準備をする。(何個ずつ配るかを決める。)</p> <p>③各班に配るものを準備し、配布する。 (洗面器、ウエットティッシュ、手回しラジオ付き懐中電灯、電池式ランタン(電池含む)等)</p> <p>④共有で使う備品の管理方法など話し合い決める。</p> <p>【環境えいせい班】</p> <p>①周りへの気づかい、ケガ人や具合の悪くなった人がいたら、先生に報告すること。</p> <p>②ゴミ捨ての分別ルールを決めて、ごみ袋を設置する。</p> <p>③暗くなる前に、寝る場所と通路を決めて、テープを床に貼る。暗い場所(トイレ)に、懐中電灯やランタンをセットする。</p> <p>④段ボールで仕切りを作り、着替えるスペースを作る。</p> <p>【生活ルール班】</p> <p>①避難所はみんなで過ごす場所なので、寝る部屋・消灯時間・避難所での生活ルールを決める</p> <p>②決めたルールを模造紙に書いて、みんなが見える場所に貼りだす。 等</p>	<p>★避難所は様々な人が一緒に生活するので、意見がまとまらないこともある。みんなで話し合い、どうするのかを決めて活動すること</p> <p>※活動中にマジックやごみ袋等必要なものを持ち出す際、物資班に声をかけてから使用する。物資班に在庫管理をまかせることで、より実際の避難所運営に近い形になる。</p>
まとめ (25分)	<p>3. 活動のまとめ</p> <p>①各班で考えたことや活動内容を発表し合わせる。</p> <p>②みんなで決めた避難所のルールを守って生活することを約束させる。</p>	  

宿泊体験プログラム② 足湯体験 避難所でホッとしよう

《体験時間》 60分～90分

《準備品》 差し湯用の手桶、電気ポット、洗面器、ブルーシート、紙コップ、ガムテープ、ペットボトルの水、入浴剤、椅子、つぶやきカード、フェイスタオル

《ねらい》 避難所生活の中でのストレスケアやリラックスをするための方法を知り、体験する。
気持ちがリラックスすると、抱えている悩みや困りごとを伝えやすくなることを知る。

《教科との関連》 道徳「主として他の人とのかかわりに関すること」

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 地震選択2、6

時間	内容	ポイント(★)・留意点(※)
導入① (10分)	<p>1. 避難所での心のケアの大切さを伝える。</p> <p>①避難所には気持ちが沈んでいる人も大勢いる。どのようにすれば、少しでも元気づけることができるかを問いかける。</p> <p>②抱えている悩みや不安は人によっても違う。 気持ちが落ち着き、悩みや不安を「自らの言葉で伝えられる(吐き出せる)」と、少しずつ気持ちが前向きになることを伝える。</p> <p>③抱えている悩みや不安を伝えやすくする心のケアとして、阪神・淡路大震災から被災地で続いている「足湯ボランティア」を紹介し、二人一組で体験することを伝える。</p>	<p>※専門家や足湯ボランティアの経験者と協力して進めるとよい。</p> <p>※足湯ボランティアとは？ 足を10～15分、お湯につけ手をさすります。その間にボランティアと1対1でお話をします。足湯ボランティアには老若男女誰でも参加することが出来ます。その会話の中の言葉のことを「つぶやき」と呼んでいます。足湯につかりのんびりした空間を作ること、肉体的な疲れやストレスを少しでも解消してもらいます。 引用：被災地NGO協働センターHP</p>
展開① (40分)	<p>2. 足湯ボランティアを体験させる。</p> <p>①足湯のやり方を実演紹介し、二人一組で以下の1)、2)の両方を体験させる。</p> <p>1)「ハンドマッサージをする人」はお話を聞く人 洗面器にお湯と入浴剤を入れたものを準備する。 水を加えて、温度を調整する。相手に湯加減を確認する。 相手が話してくれた内容にうなずいたり、その気持ちわかるよと相手の気持ちを尊重したりして、お話をする人が少しでもリラックスできるように心掛ける。 聞いた内容と感じたことを「つぶやきカード」に書く。</p> <p>2)「足湯を体験する人」はお話をする人 体験をする前にコップ1杯の水を飲む。 洗面器のお湯に足を浸けて、避難所体験の感想や最近楽しかったこと・悲しかったこと等を相手に伝える。</p>	<p>※お湯を洗面器に入れる際、やけどをしないように大人が補助をすること</p> <p>★お湯と入浴剤を洗面器に入れ、そこに水を足しながら、人肌くらいの温度に調整する。</p> <p>★交代時には洗面器のお湯を捨てて、新しいお湯を準備する。</p> <p>参考資料：足湯つぶやきカード</p>
まとめ (10分)	<p>3. 活動のまとめ</p> <p>①足湯を体験して、どんな気持ちになったか感想を伝え合う。</p> <p>②実際の避難所での足湯にはどのような効果があったのか、体験談を伝えてまとめる。</p>	<p>★自分が辛いときにも、相手を気遣うことや思いやることの大切さを押さえる。</p>



七尾小学校足湯体験 つぶやきカード

実施年月日	場所	
実施者(氏名)	協力者(氏名)	実施時間
相手(氏名)	相手(年齢)	相手(性別)
つぶやき	感想(相手から)	

宿泊体験プログラム③ 災害時にも温かい食事を作ろう

《体験時間》 90分～120分 ※事前に使用する具材を切り分け、グループごとに準備をしておく。

《準備品》 カセットコンロ、ガスボンベ、包丁、計量スプーン、計量カップ、菜箸、鍋、キッチンばさみ、耐熱性のビニール袋（アイラップ等）、アルミカップ、アイラップ、食材、マジック、新聞紙 等

《ねらい》 家庭にあるものを工夫して災害時にも温かい食事をとる調理方法を学ぶ。

《教科との関連》 4年理科「水のすがたと温度」、5年家庭科「おいしい楽しい調理の力」「食べて元気！ご飯とみそ汁」、食育「健康と食事の関連を意識する」 等

《新潟県防災教育プログラムとの関連》 地震選択2, 6

時間	内容	ポイント(★)・留意点(※)
導入① (10分)	<p>1. 災害時の困りごとを伝え、食事について考えさせる。</p> <p>①災害時には電気、ガス、水道が使えなくなることがあることを伝える。</p> <p>②家庭にあるもので、あたたかい食事をとるための工夫を体験することを伝える。</p>	<p>※事前に鍋にたくさんのお湯を沸かしておく。</p> <p>※食生活改善推進委員の方から各グループで指導していただく。</p>
展開① (35分)	<p>2. お米と野菜スープを作る。</p> <p>①お米の洗い方や耐熱性のビニール袋の縛り方を伝えて、お米を炊く準備をする。</p> <p>※お米を入れた袋に少量の水を加え、袋の外側から優しく揉む。お米がこぼれないようにとぎ汁を捨てる。お米と同量の水を加えて、袋の空気を抜き、なるべく上側で縛る。</p> <p>②スープの材料を一人分ずつ耐熱性ビニール袋に入れる。</p> <p>①と同様に袋の空気を抜いて、なるべく上側で縛る。</p> <p>③お米とスープの準備ができたら、班ごとに鍋の場所に移動して、袋を鍋に入れる。(加熱時間は15分、お米は加熱後10分間蒸らす。)</p> 	<p>※食生活改善推進委員の方に、以下2点をお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始までに材料をグループ分の材料を切っておく。 ・開始後は各グループに一人ずつ入って指導してもらう。 <p>※袋に油性マジックで自分の名前を書いておくことよい。</p> <p>※鍋に入れる作業、取り出す作業は大人が行う。火をつけている間は大人がその場に待機すること。</p> 
展開② (35分)	<p>3. サラダと紙食器を作る。</p> <p>①ポテトスナックサラダ</p> <p>※ポテトスナックに少量のお湯を入れてふやかす。ふやけたポテトスナックをつぶして、シーチキン、コーン、マヨネーズ等を加えて混ぜる。</p>  <p>②紙食器づくり</p> <p>※作り方は、防災レクリエーションの活動プログラム②「紙食器の作り方」を参照</p>	<p>※調理道具は、調理が終わり次第片付ける。</p> <p>※牛乳パックの角を切り、スプーンとして使う工夫もある。</p>
完成 (10分)	<p>4. 食事をする準備をする。</p> <p>①ふきんで鍋から取り出したお米とスープの袋を軽く拭く。</p> <p>②紙食器に乗せて、はさみで袋の縛ったところを切る。</p> <p>③アイラップを食器にかぶせるように開いて食べる。</p>	

わくわく『サバイバルクッキング』レシピ

作り方を教えてもらいながら、グループで協力してご飯を作ろう！

1. ポリ袋で炊くご飯

材料	1人分	4人分	作り方
米	1/2 カップ	2 カップ	1 ポリ袋の中に米と水 1/2 カップを入れて、軽く揉み洗いし、その水を捨てる。 2 水 1/2 カップを加えて、袋の空気を抜いて結ぶ。 3 鍋に湯を沸かし、2を入れて約 15 分加熱し火を止め、そのまま 10 分ほど蒸らす。
水	1 カップ	4 カップ	
アイラップ(ポリ袋)	1 枚	4 枚	
器具類	計量カップ、鍋 (36cm 径程度)		

2. ちょっと豪華なポテトスナックサラダ

材料	1人分	4人分	作り方
ポテトスナック	1/2 個	2 個	1 ポリ袋にスナックとお湯を入れて、ふやかす。 2 1に他の材料を加えて混ぜる。 3 小分けして盛りつける。 皿はアルミカップを使う。
ツナ缶	1/4 缶	1 缶	
グリーンピース缶	1/8 缶	1/2 缶	
コーン缶	1/8 缶	1/2 缶	
お湯	大さじ3	大さじ12	
マヨネーズ	小さじ1強	小さじ5	
アイラップ(ポリ袋)	1 枚	4 枚	
器具類	計量スプーン、計量カップ、皿		

3. 野菜スープ

材料	1人分	4人分	作り方
キャベツ	1/16 個	1/4 個	1 野菜は、手でちぎるか、キッチンばさみで食べやすい大きさに切る。 2 材料を全てポリ袋に入れて、袋の空気を抜いて口を結ぶ。 3 鍋に湯を沸かし、2を入れて、約 15 分加熱する。
ニンジン	1/4 本	1 本	
カットわかめ	2 つまみ	8 つまみ	
しめじ	1/8 パック	1/2 パック	
こぶ茶	1 杯分	4 杯分	
水	1 カップ	4 カップ	
アイラップ(ポリ袋)	1 枚	4 枚	
器具類	計量スプーン、計量カップ、器		

平成 29 年度

新発田市防災キャンプ

実施報告書

あかたにの家活用プログラム事例集

平成 29 年 12 月

新発田市教育委員会

制作協力：NPO 法人ふるさと未来創造堂

